

令和3年度使用

中学校において使用する教科用
図書 の 選 定 に 必 要 な 資 料

隠岐採択地区教科用図書採択協議会

各発行者記号は次のとおりである。

記号	発行者名	記号	発行者名
A	東京書籍	L	新興出版社啓林館
B	大日本図書	M	山川出版社
C	教育図書	N	数研出版
D	開隆堂出版	O	日本文教出版
E	学校図書	P	学研教育みらい
F	三省堂	Q	自由社
G	教育出版	R	育鵬社
H	教育芸術社	S	学び舎
I	光村図書出版	T	廣済堂あかつき
J	帝国書院	U	日本教科書
K	大修館書店		

選定に必要な資料

国語

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○「本編」「基礎編」「資料編」の三部で構成されている。「基礎編」で学びを支えるもととなる言葉の力を鍛え、「資料編」で学びを深化・発展出来るような資料が掲載されている。</p> <p>○「読む」領域の末に示されている「てびき」を活用することによって、目標に迫ったり理解を深めたり出来るようになっている。(1年 P, 104 2年 P, 22等)</p>	<p>○「話す・聞く」や「書く」などの表現活動においては、途中段階や完成例などが具体的に示されており、見通しをもった自発的な活動になるように配慮している。</p> <p>○文学作品は名作(3年 P, 171～)から現代の作家による作品(3年 P, 37～)まで幅広く掲載されている。また、説明文では読み取りや読み比べを(2年 P, 90～)積極的に取り入れている。</p>	<p>○身近な場面を漫画で描いた「学びの扉」があり、自ら課題に気付くことが出来るように工夫している。</p> <p>○課題を簡潔な「問いかけ」として示しており、意識しながら取り組むための意欲付けとなっている。</p> <p>○オリジナルキャラクターや学びの扉での漫画の活用により主体的な学びを導くように工夫されている。</p>	<p>○「読書案内」(1年 P, 287～等)や「読書活動」の充実が図られるなど、全ての学習の基盤ともなる読書が重視されている。</p> <p>○文章と図表を結びつけて読むことを通して生徒の「読む力」を育成する工夫がされている。(2年 P, 55～)</p>	<p>○他教科の学習内容と関連している教材に、教科関連マークがついている。(1年 P, 172等)</p> <p>○「広がる言葉」と資料編「言葉を広げよう」(1年 P, 328～)で1555の語彙を示しており、幅広い言葉(類語)を知るための助けとなっている。</p>	<p>○1年生最初の教材は文字や行間を大きくしてある。(1年 P, 14 P, 222) ○デジタルコンテンツを、家庭での自主学習にも利用できる。(Dマーク付き)(1年 P, 130)</p> <p>○各学年の巻頭に国語を学ぶ意義を伝えるメッセージが掲載されており、揺るがない理念を感じることが出来る。</p>	<p>○各教材で身につけたい能力が「言葉の力」で示されていることで、生徒にとってはわかりやすく、興味を持って授業に参加しやすくなっている。また、問題解決的な活動(1年 P, 193)も多く、対話を通して学びが深まるように工夫されている。</p> <p>○表紙がどの学年も美しく、また各教材の挿絵も落ち着いた色合いでまとめている。</p>
F	<p>○「本編」と「資料編」の二部構成となっている。「本編」では各学年の系統性を明確にするため、同じ時期に同じ領域の学習が出来るようにしている。</p> <p>○「読む」教材の終わりに配置してある「学びの道しるべ」(1年 P, 50等)には、学習課題がわかりやすく示されている。</p>	<p>○「読む」領域では、「読み方を学ぼう」(1年P, 104等)というコーナーを効果的に配置し、三年間で22種類のスキルが身につけられるように配慮している。</p> <p>○「グループディスカッション系列」(2年 P, 34等)や「レポート系列」といったように、話すこと・聞くことや書くことにおいても、学年を追って系統的に学べるように工夫している。</p>	<p>○「歌の言葉」には「ゆみ方」や「AKB48」など若い世代に人気のある歌手の作品が載っている。(1年 P, 224 2年 P, 226)</p> <p>○古典の資料には写真や絵が多く載せられている。また挿絵も色鮮やかでイメージがわきやすく、興味・関心につながっている。(2年 P, 125)</p>	<p>○「ブックトーク」「ビブリアバトル」「ブッククラブ」(3年 P, 179)など、さまざまな読書活動が用意されている。</p> <p>○3年古典教材「能・狂言」(3年 P, 270)は、県の伝統芸能である神楽に通じる。</p>	<p>○各学年の第一単元に「グループディスカッション」を位置づけ、習得した話し合いのスキル他教科や日常生活に生かされるように考えられている。(1年 P, 30)</p> <p>○各学年に日本語と英語との比較を通して言葉の特徴などについて考えるコーナーが設けられている。(2年 P, 237)</p>	<p>○教材末の二次元コードから「読み方を学ぼう」を活用した図解例が見られるようになっている。(2年 P, 255)</p>	<p>○文章を深く読み、味わったり内容を正確に読み取ったりするための方法を「読み方を学ぼう」というコーナー(2年 P, 96)で図解を用いてわかりやすく示し、「読み」のスキルアップにつなげている。</p> <p>○系統立てて学べるような工夫が随所にみられ、三年間を見通した学習が計画されている。</p>

選定に必要な資料

国語

NO. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	<p>○「学びナビ」(3年 P, 16)で見通しを持たせ、「みちしるべ」で学びを深め、「振り返り」(3年 P, 28)が出来るようになってきている。</p> <p>○1年「プロローグ」(1年 P, 78～)から3年「エピソード」(3年 P, 226)まで、全学年で学びの問いが展開されている。</p>	<p>○1年「桜蝶」(1年 P, 18～)(同一のストーリーを異なる語りで表現する)のように、特に文学作品において新しい試みによる魅力的な作品が多い。</p> <p>○説明文についても「AIは哲学できるか」(3年 P, 74～)など、現代社会の問題に触れる作品が掲載されている。</p>	<p>○東京2020オリンピック・パラリンピックに関する話題を取り上げた、今ならではの教材を掲載し、生徒たちが興味・関心をもって学べるように工夫している。(2年 P, 72、3年 P, 74)</p>	<p>○全学年に図書館やインターネットの活用などに関する教材を配置している。(2年 P, 78)</p> <p>○「広がる本の世界」には、単元に示したテーマなどに関する図書が数多く紹介されている。(2年 P, 42)</p>	<p>○巻末教材「言葉の自習室」に、文学史年表や原稿用紙の使い方など、他教科でも役立つ資料が掲載されている。</p> <p>○他教科に関連するテーマが多く取り上げられており(2年 P, 207)、幅広い学びに繋がることを期待される。</p>	<p>○各学年に「学びのチャレンジ」として読解力・表現力を育てる問題が掲載されている。(2年 P, 211)</p> <p>○生徒の自学に役立つ資料が「学びリンク」(各学年 P, 12)(として、ホームページから利用できる。</p>	<p>○本文の前に「学びナビ」があり、着目をあらかじめ理解した上で内容に入れることが出来るため、見通しをもって取り組みやすい。</p> <p>○全学年、各領域でSDGsを取り入れた課題が設定されており(3年 P, 220)、多様な価値観を理解するきっかけとなる。</p>
I	<p>○各教材のねらいが明確で、基礎・基本的な内容が、系統的・段階的に位置づけられている。(1年 P, 28)</p> <p>○学習活動を通して「言葉による見方・考え方」を育成できるよう、年間8系列のテーマで教材を配置している。</p>	<p>○各教材末の「学習」に学習過程が明示してあり、身につける力の焦点化が図られている。(1年 P, 50～)</p> <p>○文学作品にも、説明文にも名作(3年 P, 98)から現代の作家(1年 P, 22)までの作品が幅広く掲載されており、おもしろい教材が多い。また、比較して読むことが出来る教材が複数用意されている。</p>	<p>○「最後の晩餐」(2年 P, 171～174)に関連する絵画を折り込みページで大きく掲載するなど、資料や写真が効果的に配置されていて、興味・関心をもって読み進めることが出来るよう工夫されている。</p>	<p>○作品の一部を紹介して続きを読むように促す「味見読書」的な教材があるなど、図書の紹介がさらに充実した。(2年 P, 84)</p> <p>○三年間を通して「聞き上手になろう」(1年 P, 116、2年 P, 112等)の系列が新設されており、質問力を鍛えることで、対話的な学びの基礎を身につけることが出来るように工夫している。</p>	<p>○「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」(2年 P, 264)において、文章における情報の扱い方等がわかりやすく解説してあり、実践に生かせる力ががつくよう工夫されている。</p> <p>○各学年の最後に「学習を振り返ろう」(2年 P, 258)を設け、身につけた力が他教科や日常生活に生かしていけるように配慮している。</p>	<p>○二次元コードには、多彩な学習コンテンツが収録されており、自学につながる。(3年 P, 150)</p> <p>○巻頭に折り込み教材として「思考の地図」が示され、いつでも使える思考の手がかりとして、さまざまな思考ツールが紹介されている。</p> <p>○「学習の窓」(1年 P, 219)で読みのポイントが図解しながら解説されていてわかりやすい。</p>	

選定に必要な資料

書写

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○全学年合算 ・主な毛筆教材は、1・2年が各5教材、3年1教材(折り込みの書き初めの手本、各学年1点ずつを含む) ・硬筆は各学年に古典を1教材ずつ配置。</p>	<p>○文字を美しく書くための知識・技能を「書写のかぎ」と名付けて一単元の一つ配置しており、目標から振り返りまでの学習事項が明確で、ねらいに迫りやすい。(p.34, 35) ○特に振り返りにおいては「振り返って話そう」という対話的な学びが取り入れられている。(P, 47)</p>	<p>○さまざまな世界で活躍する方々への「仕事の中の手書き文字」についてのインタビューや「高校生の活躍」の紹介が載せてあり、書写で学んだことが将来どのように生かされるかのイメージを具体的にもたせることで、書写への興味・関心を高めている。(P, 84, 95)</p>	<p>○「文字のいずみ」で、因州和紙(鳥取)石州和紙(島根)などを取り上げ、郷土の伝統工芸ならびに、その他の地域の伝統工芸にも関心が持てるように工夫されている。(P, 40) ○「本のポップを書こう」や「本の感想カード」を書くなど、さまざまな読書活動に生かせる内容が取り上げられている。(P, 64, 82)</p>	<p>○「教科関連マーク」をつけることによって、他教科に関連する内容が示されており、書写での学びを他教科に広げることを意識付けている。(P, 42, 45) ○「年賀状の書き方」(P, 42)や「手紙の書き方」(P, 26)など日常生活ですぐに役立つ情報が掲載されている。</p>	<p>○巻末に「書写活用ブック」が配置されており、さまざまな場面での活用が期待できる。 ○インターネットを使って学習に役立つ動画や資料を活用することができる。(P, 14)</p>	<p>○「書写のかぎ」(P, 20)で明確化された学習事項に沿って学んでいくことで、系統的に言葉の知識や技能を学べるように工夫している。 ○色の使い方や、写真、挿絵などの効果的配置によって、わかりやすく学びやすい内容になっている。</p>
F	<p>○全学年合算 ・主な毛筆教材は1年6教材、2年4教材、3年1教材。(折り込みの書き初めの手本、各学年1点ずつを含む) ○毛筆の後にさまざまなタイプの書き込み型の硬筆教材が配置されている。(P, 38~44)</p>	<p>○各教材を見開きで構成し、全ての教材に学習目標と振り返りが設置されている。(P, 52, 53) ○「書き方を学ぼう」で、どのように書けばよいかの書き方のポイントが具体的にわかりやすく書いてある。(P, 38)</p>	<p>○「自分の文字を書き残そう」で1年時の文字と3年終りの文字を比べることができ、三年間の成長が見えることでこれからへの関心がつながることが期待できる。(P, 6)</p>	<p>○地域の「情報紙を作ろう」という単元があり、ふわりと教育に生かせる内容や見やすく美しい紙面作りが学べるようになっている。(P, 66, 67)</p>	<p>○「日常の書式」では宛名や伝票の書き方、時候の挨拶等の生活に必要な書式を提示している。(P, 82~) ○また、「原稿用紙の書き方」についても示してあるので、さまざまな学習に生かすことができる。(P, 89)</p>	<p>○「篆刻」についての紹介がされるなど、高等学校書道へのつながりが、「発展マーク」でわかりやすく示されている。(P, 76)</p>	<p>○見開きページで何をどの順番で学習すればよいかが表示されており、全体的にシンプルで使いやすい構成になっている。(P, 40, 41) ○硬筆による書き込みページが多い。(P, 54, 55)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

書写

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	<p>○全学年合算 ・主な毛筆教材は1年が5教材、2年が4教材、3年が2教材(書き初めの折り込み教材が各学年にある。) ・硬筆は各学年に古典教材を取り入れている。</p>	<p>○右側ページで毛筆の教材文字を観察し、左側ページでポイントを確認出来るようになっている。(見開き完結型) (P, 46, 47) ○「目的に合わせて書こう」で、相手意識・目的意識・方法意識を明示している。(P, 4)</p>	<p>○写真資料が多く掲載されるなどコラムが充実しており、興味・関心をもって授業へ参加できるように工夫されている。(P, 38)</p>	<p>○全都道府県の城の碑文が紹介しており、その中に松江城など地元のものもあるので、地域文化への興味につながる事が期待できる。(P, 97)</p>	<p>○理科のレポートの書き方や、社会科のノートのまとめ方など、各教科の書く活動に連動した課題が設定されている。(P, 13, 31) ○「お薦めの本の帯やポップを作る」など、国語と書写を連動させた課題がある。(P, 36)</p>	<p>○漢字一覧表に「楷書」が新たに追加され、また五十音順の索引も掲載されているので、より使い勝手が増している。(P, 113～128)</p>	<p>○書写の基礎・基本を学び、それが各教科や日常生活にもつながるように具体的な場面を想定しての課題が設定されている。</p>
I	<p>○全学年合算 ・主な毛筆教材は1年が6教材、2年が5教材、3年が2教材(書き初めの折り込み教材が各学年にある。) ・硬筆は各学年に3教材ずつ配置されている。 ○「書写ブック」が取り外して使用できる。</p>	<p>○「考えよう」・「確かめよう」・「生かそう」という流れが簡潔かつわかりやすく明示してあるため、見通しをもって取り組みやすい。(P, 40, 41) ○「学習の窓」に書写力アップのためのポイントがまとめられている。(P, 40)</p>	<p>○「UD書体」についてのコラムなど、SDGs への取り組みが示されており、生徒の多様性に配慮してあるため、考えたり意識したりして学ぼうとする意欲につながっている。(P, 98, 99) ○身近なテレビ番組や有名人のサインを扱うことで、生徒たちが興味・関心をもって取り組めるように工夫してある。(P, 84, 85, 105)</p>	<p>○「全国文字マップ」で出雲大社や鳥取砂丘などの碑文が紹介されており、郷土に残るさまざまな文字についての関心につながっている。(P, 92～95)</p>	<p>○「季節のしおり」や「名文を書いてみよう」で古典や詩歌の有名作品を書いて味わえるようになっており、伝統的な言語文化への理解に役立つよう配慮されている。(P, 106～107)</p>	<p>○教材ごとにQRコードがあり(P, 82)、準備・片付けの手順から、実際の筆遣いにいたるまでが動画資料として用意されていることで、自学が可能になっている。</p>	<p>○主たる学習要素を大きく丁寧に、その他を小さく簡潔に示してあり、何が大切か一目でわかる。効率的でバランスがよい。 ○硬筆練習帳「書写ブック」は28ページと質・量ともに充実している。</p>

選定に必要な資料

社会（地理的分野）

N O . 1

発行者略称	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○資料のレイアウトが工夫され各ページごとに統一されているため、資料が大きく掲載されている。</p> <p>○地理学習に必要な技能を取り上げた「スキルアップ」や資料活用能力の育成を目指した「資料から発見」など学習を進める上で必要な技能が身につくような工夫がされている。</p>	<p>○単元を貫く課題が示され、また、1時間ごとの課題の提示も問いの形になっており、授業の積み重ねにより段階的に課題解決されるよう構成されている。</p> <p>○1時間ごとの学習内容を確認する「チェック」、要約や説明をする「トライ」の2段階で学習の振り返りや学習内容が確実に定着できるよう工夫されている。</p>	<p>○各章のはじめには、生徒が学習に関心をもって取り組めるような写真や地図、面積、人口など見開き2ページにわたり掲載されている。</p> <p>○キャラクターのつぶやきや会話で学習のポイントが示され、生徒にとってわかりやすい工夫がされている。</p>	<p>○竹島の写真と地図(位置と地形図)が掲載され、特に地形図には隠岐の島町所屬としっかりと書かれていること、また、島の特徴などが簡潔にわかりやすくまとめられている。</p> <p>○島根県については、石見銀山、隠岐については、ICTを活用した離島の遠隔授業ということで海士町の取組、松江市のルビーを使ったプログラミング教育が取り上げられている。</p>	<p>○社会科の他分野や他教科とつなげて学びを深めることができるよう分野関連マークと一緒に二次元コードを読み取ると、インターネットを使って歴史や公民の関連のページの紙面を直接見ることができる。</p> <p>○他教科との関連がはつきりとわかるよう教科名が書かれている。</p>	<p>○「みんなでチャレンジ」「地理にアクセス」など随所に配置し、生徒が学びを深められるような工夫がされている。</p> <p>○色使いが非常に目に優しく、教科書内の資料が読み取りやすいような工夫が見られる。</p>	<p>○各単元の最後には、まとめの活動として「みんなでチャレンジ」のコーナーを設け、それぞれ多様な思考ツールを提示し、主体的に思考・判断した内容を適切に表現できるよう配慮されている。</p> <p>○特設ページ「資料から発見」を設け、写真やグラフ、地図など資料を読み取る力を確実に身につけられるよう工夫されている。</p>
G	<p>○「小学校の学習を振り返ろう」「地理にアプローチ」では、小学校の学習を振り返りながら中学校社会へのスムーズな連携できるような工夫がされている。</p> <p>○「地理の技」のコーナーを設け、生徒にわかりやすく資料の読み取りや作業などができる工夫がされている。</p>	<p>○1時間の学習ごとに「学習課題」「確認」「表現」を設け、生徒が主体的に学習の振り返りや表現活動ができるような記述がされている。</p> <p>○「地理の窓」では、興味・関心を喚起させるような特色のあるミニコラムが掲載されている。</p>	<p>○各章・節の学習を見通す導入のページに生徒の興味・関心を喚起するような非常に大きい写真資料を掲載している。</p> <p>○キャラクターの言葉が導入資料の見方のヒントになっている。</p>	<p>○日本の領域に関する基礎的な学習、及び竹島、北方領土、尖閣諸島など日本の領土を旋対立や現状について写真や記述から理解が深まる工夫がされている。</p> <p>○島根県については、石見神楽の写真、三江線のバス、地域おこし協力隊の活動として、益田市の取組みが紹介されている。</p>	<p>○歴史的分野、公民的分野に関連のある内容については、関連マークとともに語句が掲載されており、3分野の学習を結びつけて学習できる工夫がされている。</p> <p>○小学校の学習を振り返るページを設けるとともに中学校の学習についても学習、学習をスムーズに接続できるような工夫がされている。</p>	<p>○各章のはじめのページには「学びリンク」と二次元コードがあり、学習内容に関連するサイトが紹介されている。</p> <p>○世界と日本の学習の間の折り返し資料は、8ページにわたる大きく広げることができる資料を掲載し、世界と日本両方の学習に役立てることができる。</p>	<p>○各節の導入のページで学習の進め方とともに写真資料を豊富に使い、節の終わりには特設ページで発展的な学習ができる工夫、まとめのページでは学習の振り返りや自分の言葉で表現する活動ができるようになっている。</p> <p>○「地理の窓」や「地域から世界を考えよう」を随所に設け、事象を多面的・多角的に捕らえることができるよう工夫がされている。</p>

選定に必要な資料

社会（地理的分野）

N O . 2

発行者略称	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
J	<p>○「技能をみがく」では、地理の学習における基礎的な技能が身につけられるよう工夫された記述となっている。</p> <p>○学習する上でよく出てくる語句ではあるが理解しにくいものが「わかりにくい用語の解説」として52項目あり、親切である。</p>	<p>○単元を貫く課題が示され、また、1時間ごとの課題の提示も問いの形になっている。</p> <p>○授業の積み重ねにより段階的に課題解決されるよう構成されている。</p> <p>○1時間ごとの学習内容を確認する「チェック」、要約や説明をする「トライ」の2段階で学習の振り返りや学習内容が確実に定着できるよう工夫されている。</p>	<p>○各章のはじめには、生徒が学習に関心をもって取り組めるような地域の姿が見える写真やイラスト地図、面積、人口など見開き2ページにわたり掲載されている。</p> <p>○キャラクターのつぶやきや会話で学習のポイントが示され、生徒にとってわかりやすい工夫がされている。</p>	<p>○竹島について航空写真や位置図、当時の漁の様子の写真と解説などとても詳しい情報が掲載してある。</p> <p>○中国・四国地方の学習では、出雲大社、石見神楽と神楽を継承する人の話など伝統文化を継承する取組が掲載されている。</p>	<p>○小学校の学習事項や社会科の他分野との関連する事項がある場合には本文の下に関連する語句が分野ごとに提示されている。</p> <p>○それぞれの地域で暮らす人々の「声」や特設ページ「地域の在り方を考える」のコーナーにおいて、学習を身近な問題としてとらえることができるよう工夫されている。</p>	<p>○教科書のはじめに「この教科書の学習の仕方」が掲載され、生徒が主体的に自学自習ができるよう配慮されている。</p> <p>○時差など生徒にとってわかりにくいと思われる事柄には二次元コードによるアニメーションを掲載して理解を促すような工夫がされている。</p>	<p>○単元ごとに示された「問い」を受けて、最後に地理的な見方・考え方を働かせたまとめで、知識・技能や思考力・判断力・表現力に身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○写真だけではわかりにくい地形的特徴については、イラストを活用し、分かりやすく理解できるよう工夫されている。</p>
0	<p>○世界や日本の今日的課題について、「地理+α」「自由研究」で学習をさらに掘り下げ、学習内容の理解を深めていくことができるよう工夫されている。</p> <p>○「スキルUp」で、地理の学習で育てたい技能を整理し、系統立てて習得できるよう工夫されている。</p>	<p>○各章のはじめにはその章で着目する見方・考え方が簡単に示され、1時間単位の授業のページにおいても学習課題とともにその時間の見方・考え方の提示がされている。</p> <p>○1時間の授業ごとにはじめに「学習課題」最後に「確認」を設け、見直しをもって学習に望み、最後には振り返りができるよう配慮されている。</p>	<p>○教科書の冒頭見開き2ページで、「イチゴ」にスポットを当て、生産者から消費者へ届くまでわかりやすくイラストで解説しながら地理的な見方・考え方を学ぶことができる工夫がされている。</p> <p>○キャラクターのつぶやきにより、生徒が主体的に学習できるような工夫がされている。</p>	<p>○領土問題については、竹島について独立して項目立てがしてあり、具体的に学べるような記述をしている。</p> <p>○出雲大社や海士町が実施している「島留学」についての写真や記述が掲載されている。</p>	<p>○本文下部に小学校での学習や歴史的分野・公民的分野との関連について具体的に記述してある。</p> <p>○「地理+α」では、世界や日本における伝統・文化の現状とそれを守り継承していく人々について理解を深めることができるようになっている。</p>	<p>○デジタルマークがついた教材については、ウェブサイトにあるデジタル資料で学習が深められるようになっている。</p> <p>○各単元で「単元カラー」が示されており、色使いが統一され、復習や自主学習をする上で使いやすい工夫がされている。</p>	<p>○随所に「自由研究」「チャレンジ地理」などで世界や日本で今起きている出来事を紹介し、今日的な課題を理解できるような工夫が見られる。</p> <p>○「トライ、深めよう、資料活用、アクティビティ」など、随所に問いや活動を設けて、生徒が主体的に学習を行うための教材やシンキングツールなどを豊富に配置している。</p>

選定に必要な資料

社会（歴史的分野）

N O . 1

発行者略称	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○見開き2ページの本文を囲むようにして写真や資料が掲載され、約半分を占めている。本文の文章は行間が広く読みやすいように配慮されている。</p> <p>○写真や図表などの資料がバランスよく配置され、「スキルアップ」のコーナーでは、情報を集めたり、読み取ったり、まとめたりする技能が身につけられるように構成されている。(p. 37)</p> <p>○説明を要する重要語句については、簡潔で分かりやすい注釈や写真・グラフ等が提示されている。(p. 30, 31)</p>	<p>○各章の導入では、小学校での学習内容が年表中に示され、章のまとめで本章での学習内容を加えて年表が完成するように構成されている。(p18, 58)</p> <p>○小学校での学習を振り返る活動を通して、各章や各節、各授業での学習課題を示し、段階を踏みながら単元をまとめることができるよう工夫されている。(p19, 59)</p> <p>○全ての小単元が見開き2ページで構成されているため、導入・展開・まとめまで利用できる。(p20, 21)</p>	<p>○特集ページ「資料から発見」では、絵巻物や屏風絵といった絵画資料から、興味・関心を持ってその時代の特徴を読み取れるよう工夫されている。(p52, 53)</p> <p>○コラム「もっと歴史」では、琉球文化やアイヌ文化について詳しく紹介され、興味・関心を持って文化の多様性を理解できるよう工夫されている。(p. 90, 91, 140, 141)</p>	<p>○コラム「もっと歴史」では、「島根県と神話」を取り上げ、出雲大社とともに出雲神話や佐陀神能について詳しく記述されている。(p54)</p> <p>○竹島について「領土をめぐる問題の背景」では、写真や当時の地図を用いて、島根県への編入の経緯が詳しく記述されている。また、韓国による不法占拠や我が国の対応についても記述されている。(p. 178, 180, 259)</p>	<p>○他教科の学習と特につなごうの強い内容には「教科関連マーク」を付し、教科等横断的な視点から学習内容を深められるよう工夫されている。(p. 15)</p> <p>○「歴史にアクセス」や「もっと歴史」のコラムでは、伝統・平和・防災・人権などのマークが示され、社会との関連を意識できるよう工夫されている。(p87, 242, 274)</p>	<p>○二次元コードがあるページでは、学習に役立つ様々な情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○特集コーナー「みんなでチャレンジ」では、対話的な活動によって多面的・多角的に考えられるように構成されている。(p. 191)</p> <p>○他分野（地理や公民）とつながりの強い内容には、「分野関連マーク」を付し、広がりのある学習が可能で、受験対策にも配慮されている。(p. 29)</p>	<p>○章末の「まとめの活動」では、本章の学習内容をくらげチャートやXチャートといった思考ツールを活用して各自でまとめ、時代を大観できるよう工夫されている。(p60, 61, 96, 97)</p> <p>○各分野や各教科との連携を意識させる構成となっており、人権問題や平和問題など現在につながる歴史的事象について様々な視点からとらえられるよう工夫されている。</p> <p>○「問い」を軸にした単元の「構造化」で課題解決的な学習ができるよう工夫している。</p>
G	<p>○見開き2ページの本文を囲むようにして写真や資料が掲載され、約半分を占めている。本文の文章は行間が広く読みやすいように配慮されている。</p> <p>○説明を要する重要語句については、注釈や写真・グラフ等が提示されている。(p. 20, 21)</p>	<p>○小単元では学習課題を示して見通しを持たせ、小単元のまとめでは、「確認」や「表現」によって調べたり、説明したりする活動を取り入れている。(p. 20, 21)</p> <p>○学習のまとめで用いる年表は、見開き2ページで示され、見やすさに配慮され、各自で記入も可能である。(p. 56, 57)</p>	<p>○「すぐろくにチャレンジ」や「カード作り」など、興味・関心を持って小学校での学習を振り返れるよう工夫されている。(p. 2-6)</p> <p>○小単元のタイトルの上の部分に時代スケールが設けられ、学習する時代が色で示されている。また、タイトルはその時代の特徴を表す言葉が用いられ、興味・関心を引くものとなっている。</p>	<p>○「銀で結びつく世界」というテーマで石見銀山について取り上げ、貿易において石見銀山の銀がどのような役割を果たしているのかが説明されている。(p. 106)</p> <p>○竹島について「形づくられる日本」の本文で島根県への編入が記述され、「隣国と向き合うために」というコラムの中で編入の経緯や韓国の不法占拠、日本政府の対応について記述されている。(p. 176, 268)</p>	<p>○「歴史を探ろう」では、14のテーマが設けられており、その中には、リサイクルや人権などのテーマがあり、現在とのつながりを考えられるように構成されている。(p. 140, 141, 158, 159)</p> <p>○「身近な地域の歴史を調べよう」では、図書の種類や意見の共有とまとめ方など、情報を集めたり、まとめたりする活動について詳しく説明されている。(p. 10-16)</p>	<p>○二次元コード「まなびリンク」があるページでは、学習に役立つ様々な情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○巻末の「世界地図の歴史」では、歴史上で世界の形がどのように考えられてきたのかについて、興味・関心を引く資料が掲載されている。</p>	<p>○「歴史を探ろう」や「身近な地域の歴史を調べよう」など学習内容を深めるページを多く取り入れ、多面的・多角的な視点で歴史的事象がとらえられるよう工夫されている。</p> <p>○章末の「時代の変化に注目しよう」では、その時代の特徴を確認するとともに、次の時代での変化について予想する活動を取り入れている。(p. 94)</p> <p>○3つの特色①主体的・対話的で深い学びへの取り組み②持続可能な社会の実現に向けた課題解決への取り組み、③学び方への取り組み、の工夫がみられる。</p>

選定に必要な資料

社会（歴史的分野）

NO. 2

発行者略称	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
J	<p>○各時代の想像図（「タイムトラベル」）や世界地図が見開き2ページで大きく掲載されており、学習で活用しやすいよう工夫されている。(p.80, 81, 156, 157)</p> <p>○各章に配置されているコラム「歴史を探ろう」や特集ページ「多面的・多角的に考えてみよう」では、学習内容を深めたり、違う視点から捉えたりできるよう工夫されている。(p. 24, 25, 32, 33)</p> <p>○小単元は、絵図や写真より全体的に文字量の方がやや多い。</p>	<p>○章や節の導入では、学習課題を示して見通しを持たせ、段階的に課題を解決できるようにし、歴史的な見方・考え方を働かせてまとめる構成になっている。</p> <p>○「タイムトラベル」という時代の想像図が章や節の導入に掲載され、時代のイメージをふくらませるとともに、前の時代と比較をしたり、疑問点を発見できるよう工夫している。(p.80, 81)</p> <p>○小単元では学習課題を示して見通しを持たせ、まとめでは、「確認しよう」や「説明しよう」によって学習するポイントが分かりやすくなっている。(p. 14, 15)</p>	<p>○特集ページ「多面的・多角的に考えてみよう」では、「赤穂事件を考察する」など、興味・関心を引く課題を示し、多面的・多角的な視点から自分の意見をまとめられるように構成されている。(p.144, 145)</p> <p>○世界地図上に想像図や各地域とのつながりを示すことで、興味・関心を持って世界の動きがとらえられるよう工夫されている。(p. 42, 43)</p>	<p>○古代の学習では、「荒れ神谷遺跡の銅剣」や出雲地方を中心に点在する「四隅突出型墳丘墓」が取り上げられ、国や権力の誕生について記述されている。(p. 27, 32)</p> <p>○竹島について、「新たな外交と国境の画定」の本文に島根県への編入が記述されている。また、コラム「日本の領土画定と近隣諸国」で編入の経緯や韓国の不法占拠などについて記述されている。(p.179, 267)</p> <p>○中央の歴史だけでなく地域史を重視することで、多面的・多角的に日本の歴史をとらえる視点が工夫されている。(p. 200, 201)</p>	<p>○コラム「未来に向けて」では、持続可能な開発目標に関連する内容として、環境や人権といった項目で、未来の社会のために参考となる先人たちの取り組みが紹介されている。(p. 153)</p> <p>○巻末の「多面的・多角的に構想する」では、歴史の学習を振り返り、現在と未来の日本や世界のあり方について、友達との対話を通して考えられるように構成されている。(p. 286, 287)</p> <p>○「歴史を探ろう」では、学習したことをさらに深めることができるような構成になっており、興味のある生徒にとっては発展的学習へと結びつけることができる。</p>	<p>○二次元コードがあるページでは、学習に役立つ様々な情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○小単元のページ右側の年表で学習する時代が確認できるとともに、巻頭や巻末の年表と対応しているため、時代の推移や世界の動きを意識できるよう工夫されている。</p>	<p>○5つの特色①「タイムトラベル」(想像図)によって時代の特色をつかめる②異なる見方を示す資料(p. 252)を掲載することで、多面的・多角的に日本の歴史を捉えられる③章や節の「問い」から深い学びにつながる(各節の「問い」の積み重ねが章の「問い」の追究につながる)④「イラスト世界地図」によって日本と世界との関りが分かる⑤「解説」や「技能をみがく」によって知識・技能の習得をサポートする、といった工夫がみられる。</p>
M	<p>○小単元は、見開き2ページで構成されており、写真・図表などの資料数が豊富である。本文での記述内容も多く、歴史的な事象が丁寧に説明されている。</p> <p>○日本史と世界史の年表が各種資料とともに並記され、世界地図も各章や巻末に掲載されるなど、世界の動きと関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 102, 103)</p>	<p>○小単元では、1～2個の学習課題を示して見通しを持たせ、終末の「ステップアップ」では、さらに学習内容を深められるように課題が提示されている。(p. 112, 113)</p> <p>○特集ページ「歴史を考えよう」では、様々な資料を読み取ることで、学習内容についてさらに考えを深めることができるよう工夫されている。(p. 76, 77)</p>	<p>コラム「地域からのアプローチ」では、特定の地域を取り上げ、その時代と関連のある史跡や特産品について、地域的な特徴をふまえて紹介されている。(p. 58, 59)</p> <p>○世界地図を用いて世界の様子や遺跡などがイラストで示されている。世界全体がどのような発展を遂げているか興味・関心を持って読み取れるよう工夫されている。(p.110, 111)</p>	<p>○「ヨーロッパ人との出会い」では、石見銀山について、銀山が示された当時の地図や銀の写真が掲載され、当時の海外における銀の需要について説明されている。(p. 113)</p> <p>○コラム「歴史へのアプローチ」では、竹島の島根県への編入と韓国による不法占拠について記述されている。(p. 266, 267)</p>	<p>○主権者の育成という観点から、特集ページ「歴史を考えよう」の中で、普通選挙や日本国憲法について考えられるように構成されている。(p. 228, 229, 260, 261)</p> <p>○コラム「歴史へのアプローチ」では、琉球文化とアイヌ文化が詳しく紹介され、日本における文化の多様性について考えられるように構成されている。(p. 88-91)</p>	<p>○二次元コードがあるページでは、学習に役立つ様々な情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○「身近な地域を調べよう」では、調査のスキルポイントが項目ごとにまとめられてあり、他教科の学習にも活用できるように説明されている。(p. 8-13)</p>	<p>○各章の導入で日本史と世界史の年表を並記したり、各時代の世界の様子を地図とイラストで紹介したりして、世界の動きとの関連を意識できるように構成されている。</p> <p>○章末のまとめでは、地図や図表を活用し、視点を明確にしてまとめ、直接記入ができるよう工夫されている。(p. 152, 153)</p> <p>○高校につながる教科書になっている。(高校の教科書で使用している史料や図版・地図などが掲載されている。世界史との関連を意識した構成になっている。)</p>

選定に必要な資料

社会（歴史的分野）

N O . 3

発行者略称	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
O	<p>○時代ごとの様子がうかがえる資料が多数使用されている。特に文化財に関する資料は多く、複数ページにわたって掲載されている。(p. 98-101)</p> <p>○内容、程度、量ともに適切であり、説明を必要とする重要語句には簡潔で分かりやすい注釈が付けてある。写真や絵図にも解説が付けてある。</p>	<p>○各編の導入には、複数の資料が提示され、前の時代と比較するなどして学習課題を見出せるよう工夫されている。また、各編のめあてが示され、見直しをもって学習に取り組めるように構成されている。(p. 64, 65)</p> <p>○「チャレンジ歴史」では、歴史的事象の考察や対話的な活動を通じて学習を深める特設ページが多く取り入れられている。(p. 216, 217)</p> <p>○各編の冒頭には「地図で見る世界の動き」のコーナーを設け、世界史と日本史を結びつけて思考できるよう工夫がなされている。(p. 16)</p>	<p>○特設ページ「歴史との対話を未来に活かす」では、学習を振り返り未来に向けて考える活動が設けられ、災害・政治参加・世界平和などに興味・関心を持つことができるよう工夫されている。(p. 298-305)</p> <p>○第1編に「歴史のとらえ方」というイラストを用いた調べ学習の解説を設け、小学校の学習とのつながりに配慮している。(p. 6, 7)</p> <p>○各編に「先人に学ぶ」「女性史コラム」のページを設け、生徒が興味を持ちそうな項目について詳しく記述してあり、興味・関心を深める工夫がなされている。(p. 79, 56)</p>	<p>○コラム「地域に学ぶ」では、石見銀山についてヨーロッパの国々に認められ、戦国時代に要所として争われたことが記述されている。(p. 121)</p> <p>○「領土の画定と隣接地域」の本文、年表、地図で竹島の島根県編入についてふれられ、特設ページ「冷戦終結後の近隣諸国との関係」で歴史の経緯と現在の状況について記述されている。(p. 192, 193, 292, 293)</p> <p>○各編に見開きの「出かけよう！地域調べ」のページを設け、学校を出て調べ学習ができるように素材や調べ方を紹介している。</p>	<p>○コラム「先人に学ぶ」では、人権保障や世界平和、文化の発展などに取り組んだ先人を紹介し、道徳科などとの関連を図ることができるよう工夫されている。(p. 215)</p> <p>○巻頭ページには、過去と現在の町並みや人々の様子などの資料が掲載されており、学習内容と現代の衣食住に関わる生活とのつながりが分かるように構成されている。</p>	<p>○二次元コードがあるページでは、学習に役立つ様々な情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○巻末には「歴史学習の基礎資料」として、絵画資料の見方や土地制度の移り変わり、文化財の種類などについて詳しく紹介されている。</p> <p>○左ページには時代を確認できるよう時代・世紀のスケールを設けてあり、調べる際の目印としても活用できる。</p> <p>○ユニバーサルデザインやカラーを取り入れた統計資料を作成している。</p>	<p>○文化財資料や考古学資料が多数掲載され、資料を比較したり背景を考えたりする活動を通して、多面的・多角的な視点で歴史的事象がとらえられるよう工夫されている。</p> <p>○学習する上での手立てとなる「歴史的な見方・考え方」について詳しく説明され、各授業で扱う「見方・考え方」について示されている。(p. 12, 13)</p>
R	<p>○多くの人物が取り上げられ、写真とともに詳しく紹介されている。様々な立場から歴史的事象を考えられるように配慮されている。(p. 208, 209)</p> <p>○古代の宗教観や神話など、日本の成り立ちについて詳しく紹介されており、古来の見方・考え方についてふれることができる。(p. 44, 56, 57)</p> <p>○見開き2ページの本文を囲むようにして写真や資料が掲載され、約半分を占めている。本文の文章は行間が広く読みやすいように配慮されている。</p>	<p>○各章の導入の「○○の世界ようこそ！」では、見開き2ページの絵画資料に着目して、その時代の特徴や他の時代との違いをとらえ、学習課題を見出せるよう工夫されている。(p. 72, 73)</p> <p>○特集ページ「歴史のターニングポイント」では、各時代を代表する大きなできごとについて詳しく掘り下げて考え、友達との意見交換を通じて理解を深められるよう工夫されている。(p. 150)</p> <p>○各章の終末には年表や地図、資料を使った「学習のまとめ」があり、個人でもグループでも復習ができるよう工夫がなされている。(p. 66, 67)</p>	<p>○特集ページ「私の博物館をデザインしてみよう」では、自分が学芸員になり展示方法を考えることで、興味・関心を持って各時代の特徴がとらえられるよう工夫されている。(p. 151)</p> <p>○各章の導入では、「鳥の目」でイラストを、「虫の目」で絵画資料を見て時代を概観し、興味・関心を高めて見方・考え方を働かせよう工夫されている。(p. 70-73)</p>	<p>○コラム「神話に見るわが国誕生の物語」では、日本の神話について詳しく記述され、その中で出雲大社や島根県の神代神楽が消化されている。(p. 56, 57)</p> <p>○竹島について「明治初期の外交と国境の画定」の本文に島根県への編入が記述されている。コラム「わが国の領土をめぐる問題の歴史の中で編入の経緯や韓国の不法占拠などについて記述されている。」(p. 183, 267)</p> <p>○「歴史ビュー」で石見銀山の開発について紹介されている。(p. 93)</p>	<p>○「震災の日本史」が特設ページで設けられ、記憶と教訓から未来をどう生きるかについて考えることができるよう工夫されている。(p. 284, 285)</p> <p>○江戸時代の生活について書かれたコラムの中で、再生、活用の知恵や環境に配慮した生活について記述され、現代社会の課題を意識して今後の取り組みを考えられるように構成されている。(p. 133)</p>	<p>○各章の導入では、「歴史ものさし」を使って学習する時代の範囲を確認でき、その時代の船から当時の様子や日本の発展をとらえることができるよう工夫されている。(p. 69)</p> <p>○学びやすさへの配慮(資料の部分拡大、サイズが分かる工夫、写真や絵画を読み解くための番号)がある。</p>	<p>○人物について「なでしこ日本史」や「人物クローズアップ」で多く取り上げられ、その時代の背景や人々の思いについて知り、様々な視点から歴史をとらえることができるよう工夫されている。(p. 214, 207)</p> <p>○特集ページ「このころ世界は」では、当時の世界の様子について詳しく述べられ、世界の動きと関連付けて学習できるように構成されている。(p. 84, 85)</p> <p>○6つの特色①「鳥の目」で大きな歴史の流れが分かる②問題解決型学習の教材を配列③歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を養う教材を配列④歴史的事象を「自分ごと」としてとらえる教材を配列⑤我が国の伝統、文化、歴史への愛情を育てる教材を配列⑥世界の歴史の中で我が国の歴史を考える視点や養う教材を配列。</p>

選定に必要な資料

社会（公民分野）

N O . 1

発行者略称	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○「スキル・アップ」で公民学習をすすめる上での基礎的・基本的な技能の身に付け方が示され、「まとめの活動」などでは複数の思考ツールを用いた整理の仕方が示されている。(p. 45, 70, 71)</p>	<p>○各章ともはじめに単元の学習を貫く「探究課題」を設定し、節ごとの「探究のステップ」や最後の「まとめの活動」を解決しながら「探究課題」にせまる単元構成となっている。(p. 6, 7, 32, 34, 35)</p> <p>○見開きページは、追究のきっかけとなる資料や学習課題が示され、学習の最後にはチェック&トライの二段階で内容の定着を図る構成となっている。(p. 8, 9)</p>	<p>○各章の導入では、市長の選出やコンビニの経営などをシミュレーションを通して学ぶことで、興味・関心を高める工夫がされている。(p. 76, 77)</p> <p>○本文に関連する内容を取り上げる「公民にアクセス」や、仕事やボランティアに携わる人のインタビューコーナーで、内容への理解を深め、関心が高まるよう工夫されている。(p. 19, 67)</p>	<p>○竹島問題について、領土をめぐる問題の特設ページにて、写真や新聞記事などをつけて、領土問題の経緯や我が国の外交努力に加え、島根県による「竹島の日」制定について記述されている。(p. 184)</p>	<p>○「みんなでチャレンジ」のコーナーが21ヵ所あり、個人やグループで作業や話し合い活動を行い、本文での学習を深められるよう工夫されている。(p. 9)</p> <p>○終章では、社会の課題を解決するために「自分でできること」を提案するレポート作成を通して、社会参画を促している。(p. 213-219)</p>	<p>○見方・考え方を活用して考察するコーナーを設け、学習を深める工夫がされている。(p. 20)</p> <p>○二次元コードによって、学習に役立つリンク集とつながったり、シミュレーションなどが行えたりするよう工夫されている。(p. 5, 81)</p>	<p>○各章のはじめでは、疑問に思ったことを問いの形で整理し、それを探究のステップとして追究する構成となっている。(p. 4, 5, 7)</p> <p>○個人やグループで取り組む作業や活動が随所に行われ、技能や思考・判断・表現などの力が付くよう工夫されている。(p. 9, 45)</p>
G	<p>○図表、写真等の資料が多く掲載され、用語や本文の解説が側注でなされるなど、生徒が理解しやすくなるよう工夫されている。(p. 40, 41)</p>	<p>○各章ともはじめに学習テーマや「見方・考え方」を提示し、章末で、ステップ1、2、3と三段階の課題で振り返る構成となっている。(p. 12, 13, 34-36)</p> <p>○見開きページは、学習のきっかけとなる資料や学習課題が示され、最後には「確認と表現」の二段階で学習内容の定着を図る構成となっている。(p. 14, 15)</p>	<p>○各章の導入では、「現代の社会ってどんな社会だろう」や「地方議会ウォッチングに行こう」などで中学生が学ぶ姿を取り上げ、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 12, 13)</p>	<p>○竹島問題について、「日本固有の領土」「韓国政府は領土問題の存在を否定」と本文に記載され、竹島の写真と解説も掲載されている。(p. 197)</p> <p>○大田市の中村ブレイスや浜田市のワゴン車による「移動期日前投票所」の資料が取り上げられ、働くことや選挙について考えさせる内容となっている。(p. 89, 189)</p>	<p>○「言葉で伝えあおう」では、裁判員裁判のシミュレーションやまちづくりのプレゼンテーションなどを通じて、本文の学習を深められるよう工夫されている。(p. 110, 111, 122, 123)</p> <p>○終章では、SDGsの視点をもって地球規模の課題と向き合い、解決を探る「私の提案」を作成することで、社会参画を促している。(p. 227-235)</p>	<p>○ノートのとおり方について取り上げ、気になったこと、さらに調べたいこと、疑問など、自学の視点が示してある。(巻頭IV)</p>	<p>○公民で意識したい学び方を示し、メディアの情報活用については、特設ページを設けたり、「クリティカル・シンキング」について具体例をもとに考えさせたりしている。(巻頭III、p. 6-9, 95)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

社会（公民分野）

N O . 2

発行 者略 称	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
J	<p>○図表、写真、統計資料などが多く掲載されている。また身近な資料をもとに実感をもたせ、本文を理解させるように工夫されている。</p> <p>○グラフや資料が読み取りやすいように色調が工夫されている。</p>	<p>○章のはじめに「章の問い」を提示し、章末のまとめで、意見の整理や意見交換などの三段階の活動を通して「章の問い」を考える構成となっている (p. 3, 16)</p> <p>○見開きページは、最初に追究のきっかけとなる資料や学習課題が示され、学習の最後には「確認」と「説明」で内容の定着を図る構成となっている。 (p. 3, 4)</p>	<p>○各部の導入では、学習内容に関するイラストが描かれ、随時イラストを振り返ることで、具体的にイメージして考えることができるようになっている。 (p. 1, 2, 4)</p> <p>○導入資料には、ワイドな写真や生徒に身近な事例を取り扱うように工夫されている。 (p. 3, 87, 119)</p> <p>○「公民プラス」や「先輩たちの選択」では、身近な実社会の動きを取り上げ、興味・関心が高まるよう工夫されている。 (p. 4, 13, 14)</p>	<p>○竹島問題について、「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際司法裁判に委ねよう」と提案」と本文に記述され、側注では、編入の経緯などが記述されている。 (p. 175, 176)</p> <p>○「よりよい社会を目指して」では、人権尊重や自然環境保護といった課題や解決に向けた取組を取り上げることで社会参画を促している。 (p. 49, 50, 197, 198)</p>	<p>○「アクティブ公民」では、実際の生活に即した課題について話し合ったり、選択・判断に取り組んだりして、本文での学習を深められるよう工夫されている。 (p. 163, 164)</p> <p>○各章末に第4部第2章でのレポート作成のための視点が示されており、レポート作成を進めやすい配慮がなされている。 (p. 106, 203-210)</p> <p>○「技能をみがく」では、公民学習を進める上での基礎的な技能として、新聞の活用の仕方や思考ツールを用いた整理の仕方が示されている。 (p. 71, 72, 103)</p>	<p>○単元「企業と経済」では、「パン屋を起業しよう」が設定され、より自分ごととして課題に取り組める工夫がされている。 (p. 127-144)</p> <p>○二次元コードによって、学習の理解を助ける動画などのコンテンツにつながるよう工夫されている。 (巻頭4, p. 3)</p> <p>○「Yes No」では、現代社会で議論されるテーマについて、賛否の意見を紹介し、多面的・多角的な考察ができるようになっている。 (P. 44, 45, 55)</p>	<p>○各部に設けられたイラストを、学習途中や学習後に随時振り返ったり、単元を通じたシミュレーション「パン屋を起業」を設定したりするなど、内容のまとめで学習が深まるよう工夫されている。 (p. 1, 2, 4)</p> <p>○地震や豪雨などの自然災害を資料や課題として取り上げ、防災について考えが深まるよう工夫されている。 (巻頭1, 2, 4, 17, 141)</p>
0	<p>○図表、写真、統計資料などが多く掲載され、複数の資料をもとに社会的事象について考えるための工夫がされている。 (p. 8, 9)</p> <p>○公民学習を進める上で、統計資料や新聞を活用する情報スキルや、様々な思考ツールを用いた整理の仕方が身に付けられるよう配慮されている。 (p. 16, 77)</p>	<p>○見開きページには、学習のきっかけとなる資料、学習課題と主な「見方・考え方」が示され、学習の最後には理解を確かなものにするための問いが示されている。 (p. 10, 11)</p> <p>○「学習の整理と活用」では、語句の整理を行って知識の定着を図ったりニュースから考察したりする活動が工夫されている。 (p. 76, 77)</p>	<p>○各編の導入に漫画を用いて課題を考える活動が設定され、学習内容の見通しや興味・関心が持てるよう工夫されている。 (p. 6, 7)</p> <p>○「公民+α」「明日に向かって」「チャレンジ公民」では、最近の話題や身近な話題を学習内容に沿って取り上げ、興味・関心を高めるよう工夫されている。 (p. 11, 50, 74)</p>	<p>○竹島問題について、「日本の固有の領土」「不法に占拠」と本文に記述され、領土をめぐる特設ページでは、竹島をめぐる歴史的背景が記述され、島根県の竹島資料室の写真が掲載されている。 (p. 182, 184)</p>	<p>○終章では、持続可能な社会の実現を目指すレポート作成に向け、課題例や作成のポイント、発表方法まで具体例をあげている。 (p. 212-220)</p>	<p>○「バリアフリー」のページでは、実際に点字が載せてあり、実感をもって理解できるよう工夫されている。 (p. 50)</p>	<p>○各編や各時で、課題解決の手がかりとなったり、理解を深めたりする主な「見方・考え方」を提示している。 (p. 123, 124)</p> <p>○「アクティビティ」「チャレンジ公民」「明日に向かって」「公民+α」など、本文に関連した資料、補足コラムの情報を豊富に配置している。 (p. 11, 29, 50, 74)</p>

選定に必要な資料

社会（公民分野）

N O . 3

発行者略称	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
Q	○「アクティブに深めよう」では、意見の整理の仕方や新聞の見方など、公民学習を進める上での技能が身に付けられるよう配慮されている。 (p. 41, 94, 95)	○見開きページには、学習のきっかけや追究の中心となる資料、学習課題が示され、学習後には、「ここがポイント」として内容のまとめが示されている。 (p. 2, 3)	○「ミニ知識」や「もっと知りたい」で学習に関連した内容を資料をもとに解説することで興味・関心が高まるよう工夫されている。 (p. 13, 56)	○竹島問題について、本文中だけでなく1ページにわたる特設を設け、竹島問題の経緯や国際司法裁判所への提訴についても記述されている。 (p. 167, 170, 171) ○2016年の参議院選挙から合区が採用されたことと特定枠について側注解説で扱い、より良い選挙制度について問題提起をしている。 (p. 89)	○「やってみよう」では、裁判の傍聴の提案や、タウンページを利用した作業の提案など、学習内容と社会生活を関連付け、理解を深められるよう工夫されている。 (p. 109, 137) ○終章では、卒業論文やディベートについて記載があり、特にディベートについては実践例を示し、取り組みやすくなるよう工夫されている。 (p. 214-224)	○全72単元が連番で示してあり、学習の進捗を把握しやすくなっている。	○随所で、日本の技術や伝統・文化について紹介され、また本文の内容に関連した歴史上の人物や著名人が写真や説明で取り上げられている。 (巻頭 i - iii, p. 55)
R	○「スキルアップ」では新聞の社説を比べたディベートや思考ツールを用いた情報の整理など、公民学習の基礎的な技能が身に付けられるように配慮されている。 (p. 87, 112, 113)	○章のはじめにある「入り口」で、その章を貫く課題に取り組む、章末では章で学んできた内容を生かして取り組む課題が設定されている。 (p. 36, 37, 72, 73) ○毎時間の学習のまとめでは、学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり、因果関係を説明することで学習を深めたりできるよう工夫されている。 (p. 19, 45)	○各章のはじめにある「入り口」では、市議員やコンビニの経営者になって課題を考えたり話しあったりすることで、興味・関心が高まるよう工夫されている。 (p. 76, 77)	○竹島問題について、特設ページを設け、竹島に関する歴史的経緯や、「于山島」をめぐる日本と韓国の主張を韓国での地図も交えて掲載している。 (p. 186, 189) ○現代社会の課題として、「情報化」について詳しく取り上げ、持続可能な社会に向けて幅広く考えることができる工夫がされている。 (p. 131, 145)	○「やってみよう」では、裁判のシミュレーションなど個人や班で取り組む作業や活動を通して、本文の学習を深められるよう工夫されている。 (p. 102) ○最終の「社会科のまとめ」では、持続可能な社会を築く観点から、内閣総理大臣として政策提案のレポート作成を例示している。 (p. 204-209)	○巻頭や巻末でSDGsについて取り上げ、最終のレポート作成まで関連付けたり、Society5.0について取り上げたりしている。 (巻頭1, 2, 巻末1, 2, p. 199)	○日本の祭りや伝統文化の特設ページを設けたり、「学習を深めよう」で日本の習慣を取り上げたりして、日本の良さに気付くよう工夫されている。 (p. 24, 25, 161, 学習資料p. 210, 211)

選 定 に 必 要 な 資 料

地図

N O . 1

発行者略称	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○A B版192ページで構成されており、明るい色使いで目に優しい見やすい工夫がされている。</p> <p>○日本地図上の地名には全てふりがながついており、正しく読めるよう配慮されている。</p>	<p>○各州・各地方の一般地図、土地利用の基本資料、地域の特徴を追求するためのテーマ資料の順で構成されており、検索しやすいよう工夫されている。</p> <p>○資料のページには「ジャンプ」マークが設けられており、1つの資料を他の地域の資料と関連付けて活用できるように構成されている。</p>	<p>○各地図のタイトル枠の下に「各地域で注目したい記号」を配置し、学習のポイントに着目させるよう工夫されている。</p> <p>○キャラクターのつぶやきや会話で学習のポイントが示され、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○竹島は、P29、P34、P35、P42、P60、P85、P97、P103、P147、P190に掲載されており、特にP190では写真とともに韓国に不法占拠されており、解決に向けての努力の記述がある。</p>	<p>○「歴史関連ページ」をアジア州、北アメリカ州、九州地方で取り上げ、歴史の学習でも活用できるよう工夫がされている。</p> <p>○「公民関連ページ」では、現代的な諸課題（環境・人口・紛争等）について公民の学習でも活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○「D」マークを示した箇所では、地図帳P3のURLから二次コードから教科翔也地図帳での学びをサポートする資料が掲載されている。</p> <p>○「テーマ資料」の後に、その地域に関する歴史的分野、公民的分野の内容の資料等が配置されている。</p>	<p>○地理的分野だけでなく歴史的分野と公民的分野の全てに関連する資料が豊富に掲載されており、どの分野でも活用できるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭8ページにわたって「SDGs」を中心に現代的な諸課題を取り上げ、その解決に向けた課題を追求したりする上で必要な知識や技能を目指せるような工夫がされている。</p>
J	<p>○A版188ページで、大きな紙面で作成されており、地図や写真、グラフ等非常に見やすく、読み取りやすい。</p> <p>○日本地図上の地名には全てふりがながついており、正しく読めるよう配慮されている。</p> <p>○「地図帳の使い方」が3ページに渡って丁寧に書かれている。</p>	<p>○世界は各州ごと、日本は各地方ごとに地図及び資料が適切に配置され、それぞれの地域の特徴が理解しやすいようになっている。</p> <p>○統計資料は、教科書の最後の方にまとめて掲載されており、州別・地方別に色分けがされているため、数値的に地域の特徴などをとらえやすいような工夫がされている。</p>	<p>○鳥瞰図に様々なイラストを記入して、その地方の人々に暮らしや地形の様子がよく分かるような工夫がされている。</p> <p>○写真資料も豊富に配置されており、そこに住む人々の生活の様子や産業の様子がよく分かるように工夫されている。</p>	<p>○竹島は、P20、P24、P30、P31、P77、P80、P89、P145、P186、P188に掲載されており、特にP80には日本列島全体の地図の中に竹島の写真とともに韓国による不法占拠について記述がされている。</p>	<p>○「本州中央部と五街道」のページがあり、歴史的分野の学習でも使用できる地図が掲載されている。(P107)</p> <p>○世界の州別の資料のページには、貿易を中心に「日本との結びつき」について各種グラフによって学ぶことができるよう工夫がされている。</p>	<p>○ページタイトルの横に二次コードがついており、インターネットに接続することにより、教科書にはない様々な資料が閲覧できるようになっている。</p> <p>○日本の各地図には、自然災害や防災に関連する資料が適切に配置され、今後の生活の中で防災への意識が高まるような工夫がされている。</p>	<p>○A版で作成されることにより、地図や資料、グラフなどが非常に見やすく、読み取りやすい。また、写真資料も非常にきれいで鮮明である。</p> <p>○随所に「地図活用」のマークとともに地図活用の技能を高めることや学習課題が示されており、生徒が主体的に学習できるような工夫がされている。</p>

選定に必要な資料

数学

NO. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業で取り扱う内容を見開き2ページにまとめようとされている。 ・導入の発問、まとめがあり、授業を意識した内容となっている。 ・入試の出題頻度が高いものが分かりやすく紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入の題材の難易度が高く、学力の低い生徒には向かない。ただし、それを単元の中で複数取り扱えるようになっている。 ・【学びを振り返ろう】では単元の振り返りができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入部分で子ども達に考えさせる【調べてみよう】【考えてみよう】【説明してみよう】は興味・関心を持たせるには有効。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の活用問題が多く、巻末の解答で詳しく説明し、考え方も書かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の事象を導入部分に取り入れようとしている。 		<p>1時間の授業で取り扱う内容が見開き2ページにまとめられており、授業で取り扱いやすい構成である。問題数は普通、難易度は様々であるので幅広い学力の生徒に対応できる。</p>
B	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業で取り扱う内容を【めあて】で示している。 ・例題の解法に矢印で詳しく解説が書かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難易度は普通である。授業の中で数学的活動(グループ)を組み入れようとしている。そのため、問題数が少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入部分で複数の考え方を比較しながら考えられるようにしている。 ・題材が身のまわりの事象となっており、興味関心を引くものである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の生徒が登場し、グローバル化を意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの事象を意識的に取り入れている。 ・他教科の内容を取り扱い、教科横断的な内容である。 		<p>授業で取り扱いやすくなるよう【めあて】を提示したり、ページ構成も工夫されている。数学的活動が多く出来るよう作られているが、問題演習できるところは少ない。</p>
E	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な内容が精選されており、とてもシンプルな作りになっている。 ・問題数は多い方であり、章末ではレベル分けもしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形の始めに作図問題を取り扱っている。 ・【どんなことがわかったかな】では授業での内容を振り返られる発問がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入部分などに実生活の事象を取り入れようとしている。 ・丁寧な説明がしてあるが、1ページに情報量が多すぎて見づらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・章末の問題が【基本】【応用】【活用】に分かれており、習熟度に合わせた学習ができる。 ・巻末に数学の【「見方・考え方」をまとめよう】が全学年に載せられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の事象を取り入れようとしている。 		<p>章末の問題が【基本】【応用】【活用】に分かれていたり、章末に自己評価できるように工夫されている。1ページの情報量が多く囲みがない。色合いも章によって強調色が異なるので見づらい。</p>
G	<ul style="list-style-type: none"> ・内容、分量、難易度については普通。 ・各章に学習のまとめのページがあり、テスト前等に生徒が復習しやすくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集によく出てくる問題が多い。巻末の補充問題は充実しているが、フォントが小さく読みにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・章の導入の【Let's try】は見開き2ページにあり、興味関心を高めるものである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【〇〇を学習する前に】で今まで学んだことを確認できるようになっている。 ・巻末にグループ活動の流れがわかるようなページがあり、授業に活用できそうである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【学んだことを活用しよう】では、既習事項が日常生活のどういったところで使われているかわかるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吹き出しで細かく説明や関連ページ数が書かれている。 ・索引に英語訳がつけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入や数学的活動のためのページを作るなど工夫が多くある。吹き出し等で説明を多くしているが全生徒に理解できるかは疑問。1ページの情報量が多く、自主学習には向いているが一斉授業には疑問が残る。

選 定 に 必 要 な 資 料

数学

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
L	<ul style="list-style-type: none"> ・問題数が豊富で実践しながら力を身につけさせることができる。 ・巻末には各章の確認テストがあり、縦開きにして見やすくする工夫もある。 ・巻末の資料などが充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーソドックスな問題が準備されている。 ・身近な題材を使った問題が多くある。 ・1年生の素因数分解の取扱いが正の数負の数の後半部分にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・章の導入ではマジックや身近なものを使った問題があり、興味関心を高められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動（グループ）ができるよう【説明しよう】【話し合おう】【まとめよう】で整理されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・章末の【〇〇の利用】では学習した内容を日常生活でどのように使っていくか考えられるようになっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・問題数が非常に多く、演習には適している。難易度は基礎的な内容を中心に、バランスよく盛り込まれている。難しい問題には丁寧な説明がある。 ・巻末資料等が充実し、授業でも使用できるものが多い。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊の【探求ノート】があり、既習の内容を発展的に広げられるようになっている。 ・問題数は少ない。巻末の【チャレンジ編】は発展的な問題が各单元ごとにあり、学力の高い生徒には適している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーソドックスな問題が準備されている。 ・高等学校の数学の内容が紹介されるページがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の事象を各所に取り入れようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【〇〇を学習の前に】で今まで学んだことを確認できるようになっている。 ・巻末に【学びの自己評価】があり、数学の学びの在り方を示し、目標を持って学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の事象を取り入れようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解答例がノートに書いてあるようなフォントで書き方指導の手本になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にオーソドックスなつくりであるが、吹き出しで見方や考え方が補足されている。しかし内容が全て話し合いの答えになっているので授業では使いづらい。別冊は内容的に授業では使いづらい。
O	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な内容が精選されており、とてもシンプルな作りになってある。 ・1時間の授業で取り扱う内容を見開き2ページにまとめようとされている。 ・【説明できるかな】では自分の言葉で解答しなければならない場を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーソドックスな問題が準備されている。 ・【とりくんでみよう】に記述式の回答が必要な問題があり、巻末に詳しい解説もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の事象を各所に取り入れようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【次の章を学ぶ前に】で今まで学んだことを確認できるようになっている。 ・数学的活動（グループ）ができるよう【学び合おう】が整理されている。対話シートもノートに貼り付けられるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【身近なことから】で学習内容が日常生活でどのように使われるか考えられるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解答例がノートに書いてあるようなフォントで書き方指導の手本になる。 ・索引に英語訳がつけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に見やすく、オーソドックスなつくりである。授業で使える活用問題はあるが、個別に取り組める基本問題、活用問題は少ない。

選 定 に 必 要 な 資 料

理科

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○「これまでに学んだこと」が示しており、生徒のレディネスを踏まえながら、授業を展開することができる。</p> <p>○つまずきやすい内容などには「例題」「練習」「確認」が設定されており、生徒の基礎・基本の定着ができるよう配慮されている。</p> <p>○分析解釈の場面では生徒が自然に段階を踏んで考えられるよう、細かいステップで考察の視点が設定されている。</p>	<p>○各節ごとに、問題発見から分析解釈までの流れが統一されており、授業の見通しが立てやすい構成になっている。また見開き1ページの目安を1時間として構成されているため、教科書を使って授業ができるようになっている。</p> <p>○学習後に「【活用】学びを活かして考えよう」や「つながる科学」「どこでも科学」が配置されていることで内容の理解をさらに深めることができる。</p>	<p>○表紙や巻頭・巻末、各単元の扉にダイナミックなイラストや写真などが配置され、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。</p> <p>○節の導入部において「レッツスタート！」が設けられていることで生徒の「なんで？」という認知的葛藤を喚起し、興味を高めることができるようになっている。</p>	<p>○「科学のミカタ」で学習指導要領で示されている理科の見方・考え方が具体的に示されていることで、それらを使って生徒が考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○「仮説」や「課題に対する結論を表現しよう」など、生徒が自分の考えを表現する活動を多く配置しており、科学的な思考力・判断力・表現力の育成ができるよう配慮されている。</p> <p>○巻末のジオパーク学習資料として隠岐の赤壁を掲載しており、地域素材を教材として活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元の随所に「つながる科学」があることで実生活との関連や高校の内容との関連に生徒が気づくことができる。</p> <p>○単元の終わりに、「世界につながる科学」というコラムがあり、実生活・職業との関連を持たせることができるようになっている。</p> <p>○「科学の本だな」があることで内容に興味を持った生徒が自分でさらに調べることができるように配慮されている。</p>	<p>○生徒の定着度の低い内容に関してはデジタルコンテンツが用意されており、練習ドリルやシュミレーション、動画などを視聴することができる。</p> <p>○教科書の軽量化が図られている。</p>	<p>◎生徒が主体的で対話的な学びができるよう、多くの工夫されていた。中でも単元冒頭の「レッツスタート」で全ての単元において生徒の問題発見から学習がスタートできるので、興味をもって学習を始めることができる。</p> <p>◎探求の流れのフローチャートが示されていたり、課題から結論までの流れが見開きで見やすくなっており、見通しを持って生徒が学習できると感じた。</p>
B	<p>○各単元の冒頭部に「これまで学習してきたこと」と「これから学習すること」が見開きで示されていることで学習のつながりが分かるよう配慮されている。</p> <p>○生徒の発達段階を鑑み、中1の教科書では文字が大きく、小学校の教科書とギャップを感じないような工夫が行われている。</p> <p>○発達段階に応じて発展的な内容の量が調節されており、つまずきを少なく学習できるように配慮されている。</p>	<p>○問題発見から振り返りまで探求の過程がマークで目立つようになっており、各学年で重視したい活動もわかりやすくなっている。</p> <p>○各単元の最後に探求活動という見開きページが設けられており、その単元で学習した内容を活かして考えることでより理解が深まるような工夫がされている。</p>	<p>○随所に配置されている「Science Press」があることで日常生との関連や発展的内容に触れることができ、生徒の興味・関心を高める工夫になっている。</p> <p>○扉絵などにビビットな写真や曲線を使ったポップなデザインになっており、生徒が親しみやすいよう工夫されている。</p> <p>○写真やイラストが多く配置されている。</p>	<p>○随所にレポートの例や結果の例が示されたページがあることで、自分のものと比べたり、結果の書き方など参考にすることができる。</p> <p>○科学的な思考力・判断力・表現力を高めることにつながると考えられる。</p> <p>○各単元末に読解力問題が設定されており、PISA調査で課題とされている読解力を高めるような配慮もなされている。</p>	<p>○密度の計算や圧力の計算などでは問題を解くときに必要な算数や数学の既習内容を示している。また、巻末には「つながる」ページが設定しており、算数・数学科との関連が良く分かるようになっている。</p> <p>○随所に「くらしの中の理科」「Professional」などが配置されていることで生活や職業との関連を見いだすことができる。</p>	<p>○ウェブコンテンツが用意されており、器具の操作を確認できる他、科学館や学習センターなどの施設のリンクや展示の動画も見ることができる。</p> <p>○デジタル教科書が用意されており、総ルビや白黒反転、読み上げなど特別支援にも配慮したコンテンツが利用できる。</p>	<p>◎写真やイラストが多く配置されており、視覚的にも生徒の興味関心を喚起しやすく、理解も促しやすい。</p> <p>◎学習内容に関連する発展的な資料が幅広く掲載されているため、あらゆる学力の生徒が興味をもって学習できる。</p> <p>◎また、小学校だけでなく高校の内容との関連や他教科との関連が明記されていることで学習内容の縦・横のつながりを生徒が理解しやすい。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

理科

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
E	<p>○教科書の本文の内容が精選されており、全体的に端的に示されているため、仮説や考察など生徒が考える時間を授業の中で多く設定できるよう配慮されている。</p> <p>○全ての実験において実験手順などが大きく写真付きで取り上げられており、説明が必要な実験も教科書を見れば生徒自ら実験を行えるよう工夫されている。</p>	<p>○全の観察・実験が「課題」「方法」「結果」のページでまとめられており、探求の過程を意識しながら生徒が学習できるようになっている。</p> <p>○資料や図が豊富に掲載されており、授業の中で利用したり、学習内容の理解を視覚的に促すことができる。</p> <p>○単元頭や観察・実験において「Can-Do List」が設定され、振り返りになっており、生徒が見通しをもって学習できるようになっている。</p>	<p>○各単元扉ページにダイナミックな写真とともに、「今まで見ていた世界が変わる」など生徒の印象に残るような言葉が書かれてあり、単元に対する関心が高まるよう工夫されている。</p> <p>○問題発見のページが配置されており、身の回りにあるものや現象から生徒が疑問を持てるようにしていることで、探求意欲の喚起を図っている。</p> <p>○サイエンスカフェや単元の関わる読み物が読めるQRコードが随所にあり、関心を持った生徒がさらに学べるよう配慮されている。</p>	<p>○各単元の探求において課題を解決するために必要な見方・考え方が明記されており、生徒が意識しながら観察・実験に取り組むことができるようになっていく。</p> <p>○考察が結果のどこに着目したのか例示されており、生徒がどのように結果を処理すればよいのか、結果からどのようなことが言えるのか考えやすくなっている。</p>	<p>○生徒が普段目にするような現象などの写真を多く掲載しており、学習内容と生活との関連を実感できるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の末に「学びを日常にいかしたら」が設定されており、学習内容の定着を図るとともに、学習内容の実用性を生徒が実感できるよう工夫されている。</p> <p>○巻末資料に県の施設を多く掲載しており、校外学習で使いやすいように工夫されている。</p>	<p>○巻末にアイデアボードが用意されているため、授業の中で学び合いのツールとして活用することができる。</p> <p>○QRコード教材が充実しており、コードを読み取るだけで、その単元に関連するアプリ、アニメーション、問題など多彩なコンテンツを利用することができる。</p>	<p>○全体的に内容が端的に編成されており、その分沢山の資料や図が大きく掲載されているのが特徴である。そのため、学習内容のポイントがわかりやすく、授業においては生徒に考えさせる活動の時間を多くとることができるのではないかと考える。</p> <p>◎掲載されている資料を授業の中で活用することができ、生徒もこれを活用して自ら勉強することができる。</p>
G	<p>○文字が大きく、関連する小学校の学習内容も写真付きで随所に配置されており、生徒が小中のギャップを感じることなく、学習に向かうことができるよう配慮されている。</p> <p>○随所にキャラクターを配置し、生徒が生活経験や既習の学習内容などをもとに課題に対する仮説や実験計画を立てることができるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年の巻頭に探求の進め方が示されており、各単元がそれに沿って構成されているため、生徒が見通しをもって学習することができる。</p> <p>○実験観察が見開きで構成されているため、実験の流れが生徒にわかりやすくなっている。</p> <p>○各単元の中に「疑問から探求してみよう」が設定されており、探求型の授業をしやすいようになっている。</p>	<p>○見開きでダイナミックな写真が各単元頭にあることで生徒の単元に対する興味・関心を高めている。</p> <p>○「思いだそう」で小学校の学習内容が写真や図で示されているため、生徒が学習内容のつながりを感じ、関心が高まるよう配慮されている。</p>	<p>○「要点をチェック」「要点と需用用語の整理」「基本問題」「学年末総合問題」が用意されており、4つのステップで学習内容の定着を図ることができる。</p> <p>○仮説場面のキャラクターの対話によって、生徒自身が生活経験などをもとにした仮説を考えることができるようになっていく。</p>	<p>○「ハローサイエンス」の中で理科で学習する原理や規則性などが日常生活の中や社会で活用されていることに触れ、学習した内容が生活において重要な役割を果たしていることを生徒が実感できるよう配慮されている。</p> <p>○「ブリッジ算数」「ブリッジ数学」によって学習内容の関連を図りやすいよう工夫されている。</p>	<p>○各学年の教科書に対応したウェブサイト「まなびリンク」が用意されており、学校の授業での利用や生徒の自主学習に役立てることができる。</p> <p>○巻末に生物の仲間分けカードや原子カードがあり、分類や化学変化を考えやすくなるように工夫されている。</p>	<p>○文字の大きさ、行間などが見やすく工夫されており、理科の中1ギャップ軽減にむけて配慮されている。</p> <p>◎小学校との関連性を重視している構成である。随所に小学校や既習内容との関連が示されており、生徒にとっては学習内容のつながりをしっかりと意識できる教科書である。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

理科

N O . 3

記号	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
L	<p>○「つながる学び」が随所に掲載されており、既習内容と関連付けて、学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○資料や写真が多く、1つ1つが大きく掲載されているため、生物などは体のつくりがわかりやすく、地層や火山などの比較もしやすくなっている。</p>	<p>○各単元に「探Q実験」が設定されており、探究の流れを意識しながら生徒自身で学習を進めることができるように工夫されている。</p> <p>○探究シートを活用することで生徒の自分自身の考えの変容が分かるようになっている。</p> <p>○教科書の本文が中央よりに統一されて書かかれており、そのまわりに数多くの資料が掲載されているなど、生徒の理解を深めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○写真や図がダイナミックにレイアウトされており、内容に対する生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。</p> <p>○単元頭に単元の内容がイメージできる写真や動画が用意されており、興味をもって学習い入れるよう考慮されている。</p> <p>○単元末に学習内容をもとに考える「みんなで探究クラブ」があり、身につけた力を試せるような工夫がなされている。</p>	<p>○理科の見方・考え方が分かる対話例によって探究の足場となるヒントが示されている。</p> <p>○生徒がつまづきやすい内容に関しては「例題」や「なるほど」が設定されており、考え方が丁寧に表示されている。</p> <p>○「基本のチェック」の他「活用してみよう」「力だめし」で学習内容の定着から応用力の育成も図られている。</p>	<p>○他教科と関連する項目が囲み枠で示されており、教科横断的に学習することができるように工夫されている。</p> <p>○「部活ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」など日常生活や実社会との関連を意識した科学コラムが用意されている。</p> <p>○単元末に「ひろがる世界」を掲載し、学習内容の実用性が生徒に伝わるよう工夫されている。</p>	<p>○巻末などにサイエンス資料が掲載され、自由研究の手がかりや実験器具の使い方を理解できるよう工夫されている。</p> <p>○QRコードを介したデジタルコンテンツが用意されており、学校の授業での活用や自主学習への活用が図られている。</p>	<p>○鮮やかな写真資料が多く、数多く掲載されており、視覚的にも興味・関心を喚起でき、授業でも活用のしやすい教科書である。</p> <p>○独自に「探Q実験」を設定しており、そのコンテンツも豊富で探究学習に対する生徒の意欲を高めることができる教科書であると感じた。多くの資料が掲載されているので生徒の追求意欲も高めることができる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

音楽（一般）

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	<p>○「学びのユニット」において、学びのねらいや学びの手がかりとなるヒントが明確に示されており、効果的に学びを深めるように工夫されている。（各学年P4～5）</p> <p>○「ACTIVE!」の「話し合おう」では、ワークシートで自分の考えをまとめ、グループでの協働的な活動にも活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○主要教材に加え、「比べてみよう」「深めてみよう」の教材が用意されていることで、生徒の実態に応じた幅広い学習計画ができるように構成されている。</p> <p>○「どんな特徴があるかな」において、音楽の要素の働きから、より音楽的な見方・考え方ができ、表現活動と鑑賞活動を関連付けた効果的な学習の構成になっている。（1年、2・3年上P.64～65）</p>	<p>○「作曲家の思いにふれる」では、曲ができた状況や作曲家の人柄などが物語風に読むことができ、楽曲への興味・関心を高めることができるように工夫されている。（口絵②）</p> <p>○「学びリンク」によって、ウェブサイトから「見る」「聴く」「記録する」の学習サポートがあり、生徒が主体的に学習につなげることができる。</p>	<p>○「郷土のさまざまな民謡」では、五音音階の種類等で分類されており、地域の民謡の特徴を考える手立てが示されている。（1年P.30～31）</p> <p>○「歌のアルバム」には学年に応じた音域での合唱曲が掲載され、無理なく歌唱できるよう工夫されている。</p>	<p>○「コンピュータと音楽」や「私たちのくらしと音楽」では、音楽を生かせる仕事や活動、音楽の持つ力について考えを深められ、実生活での音楽の生かし方が改めて実感できるように工夫されている。（2・3年上P.70～71）（2・3年下P.66～67）</p> <p>○「CMソングをつくろう」では、地域の名前や名所を取り入れた創作をすることで、生徒が自分の住む地域の良さを意識できるよう工夫されている。（2・3年下P.24～25）</p>	<p>○ビジュアル図鑑が3ページ構成で掲載され多様な情報を見渡せ、生徒の学ぶ楽しさを広げる内容となっている。（巻末口絵③④）</p> <p>○巻頭には、「日本の歌 みんなの歌」の歌詞とともに自然や四季の美しさを表す見開きの写真を掲載し、大切に歌い継がれていく楽曲を美しいビジュアルで印象づけている。（口絵①）</p>	<p>○スモールステップでの学習内容や話し合いのワークシートが掲載されており、生徒の主体的で対話的な学習がしやすいように工夫されている。</p> <p>○様々なジャンルや時代、諸外国の楽曲が取り扱われており、生徒が楽しんで学習に取り組める工夫がされている。</p>
H	<p>○創作の教材では、五音音階の音の中から自由に選び、段階的に楽譜を作ることができるように工夫されている。（2・3年上P.36～37）</p> <p>○「歌い継ごう 日本の歌」や「心を通う 合唱」では、親しみやすい単旋律の楽曲からさまざまな合唱曲まで多く掲載されており、より生徒の実態にあった曲の選択がしやすいように工夫されている。（2・3年上P.74～94）</p>	<p>○音楽科で身につけられる3つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材が示されており、どのような音楽の力を身につけられるかを一目で確認できるようになっている。（1年P.8～9）</p> <p>○どの学年においても指揮法が取り上げられ、発達段階に応じた内容になっており、鑑賞教材と関連付けて取り組める工夫がされている。（2・3年上P.50～51）</p>	<p>○巻頭に有名な芸術家からのメッセージが掲載されており、生徒が音楽への興味・関心を高めるよう工夫されている。（2・3年上P.2～3）</p> <p>○「心の歌」の楽曲において、美しい情景を見開きの大きな写真で紹介し、生徒が歌詞の内容をイメージし、興味・関心を高める工夫がされている。（2・3年下P.10～11）</p>	<p>○男子生徒の変声の状態等、生徒の実態に応じて曲を選択できるように、同声合唱から混声合唱まで幅広い音域の合唱曲が掲載されている。（1年P.68～92）</p> <p>○「日本の民謡」では、民謡が種類別に分類されており、地元の民謡と比較しながら地域文化に親しむことができるように工夫されている。（1年P.58～59）</p>	<p>○「生活や社会の中の音楽」では、「鐘の音」や「サウンドロゴ」といった身の周りの音や音楽が、生活の中で果たす役割を考えられるよう工夫されている。（1年P.66）</p> <p>○「社会を映し出す音楽」において、様々な音楽が社会に溢れていることがまとめられており、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育む工夫がされている。（2・3年下P.40～41）</p>	<p>○表紙にアニメ風の中学生が描かれており、主体的に音楽の学びに向き合うよう工夫されている。</p> <p>○「深めよう！音楽」では、生徒が自分の考えを整理しながら深い学びに向かうことができる具体的な手順が示されている。（1年P.30～31）</p>	<p>○歌唱・創作・鑑賞の学習を関連つけて教材が選択され、学んだことを関連付けて活用することができるよう、音楽を形つづけている要素を中心に教材が結びつけられている。（1年P.18～23）</p> <p>○キャラクターの吹き出しの言葉をヒントに、生徒の主体的な学びを促し、思考を深められるように配慮されている。（2,3年下P.36）</p>

選定に必要な資料

音楽（器楽）

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	<p>○「リズムdeゴー」では、生徒が運指にとらわれずにリコーダーを吹くことができ、生徒が楽しみながらタンギングに集中できるよう編曲の工夫がなされている。(P.6)</p> <p>○箏の演奏に使用する楽譜を五線譜と縦譜の2種類掲載しており、それぞれの楽譜の特徴や日本の音楽文化を理解させるのにふさわしい内容となっている。(P.40)</p>	<p>○吹く楽器と弾く楽器をまとめて配列されており、「何が同じで、何が違う？」のページで共通性と固有性を考え、生徒の深い学びにつなげることができるよう工夫されている。(P.26,52)</p> <p>○見開き1ページで学習のスタート(「学びのねらい」とゴール(「まとめの曲」)で簡潔に学習の見通しをもてる構成になっており、生徒が主体的に学習に取り組める工夫がされている。</p>	<p>○巻頭には、これから演奏する楽器や比較鑑賞する楽器の写真が見開きで掲載されており、生徒の興味・関心を高めるよう配慮されている(口絵①)</p> <p>○「名曲旋律集」では、一般の教科書で取り上げられている楽曲が掲載されているため、生徒が聴き親しんだ曲を演奏できるように工夫されている。(P.94～97)</p>	<p>○「不思議な旋律」では、オプションパートから楽器を選択し、学校の実態に合わせた構成を考えることができるよう工夫されている。(P.71,77)</p> <p>○太鼓に関する説明では、日本各地の祭りの写真等が掲載され、自分の住む郷土の伝統芸能と比較できる内容となっている。(P.54)</p>	<p>○各楽器の冒頭に一流アーティストのコメントが掲載されており、楽器の魅力や音楽を通じた自身の人生観が伝わる内容となっている。(P.4,18,24,28,36,44,54)</p> <p>○「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」では、楽器の背景にある文化や伝統について調べることができるよう工夫されている。(P.27,53)</p>	<p>○ギター&キーボードのコード表が折り込みになっていて調べやすい。ギターのダイアグラムに対応した手元の写真があることにより視覚的支援されている。(口絵③④)</p> <p>○リコーダーの練習曲にコードが書いてあるため、教員のコード伴奏によって和声を感じながら表現できるようになっている。(P.6～13)</p>	<p>○幅広いジャンルの楽曲が多数掲載されており、学校や生徒の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。</p> <p>○スモールステップで身につけた技能を使って、発展的な楽曲に挑戦できるように配慮されている。</p>
H	<p>○「深めよう！音楽」では、グループで話し合ったりグループで選択したり、響きを確認し合ったりできる流れとなっており、生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出す手立てが示されている。(P.11,13,15)</p> <p>○リコーダーの学習では、タンギングの発音だけでなく、アーティキュレーションもわかりやすく記されていてさまざまな演奏方法の技能を習得できるよう工夫されている。(P.21)</p>	<p>○鑑賞学習との関連を図った教材が取り上げられており、感受したことを表現につなげ、題材をより充実させる構成となっている。(P.46,69)</p> <p>○1つの楽曲に対して、アルトリコーダーとソプラノリコーダーの2種類の楽譜が掲載されており、柔軟に楽曲を選択できるよう工夫されている。(P.10,11,16～30)</p>	<p>○各楽器の学習の初めには、それぞれの楽器の紹介や基礎的な奏法、構えについて多くの写真が掲載されており、生徒が主体的に学習する視覚的支援がされている。</p> <p>○楽器の基礎的な演奏法を身につけることだけに留まらず、その楽器の様々な種類や演奏形態まで多くの写真が掲載されているため、生徒の学習への興味・関心を高める工夫がされている。</p>	<p>○「バンドの世界をのぞいてみよう」では、アーティストの思いや活動の様子が掲載されており、音楽にどのような意味や価値があるのかを生徒自身が考えていけるように配慮されている。(P.75)</p> <p>○巻頭では、一流アーティストのコメントや世界の様々な音楽にふれあう人々の写真が掲載され、音楽の持つ力や音楽の本質を考える内容が取り入れられている。(P.2～5)</p>	<p>○「姿勢と礼儀」では、楽器の基本的な構え方に加え、日本の伝統文化としての作法をコラムとして伝え、道徳教育との関連が図られている。(P.42)</p> <p>○「楽しもう！和楽器の音楽」では、和楽器に親しむ中学生の様子やインタビューの言葉が掲載されており、同世代の中学生が刺激を受け、音楽文化を大切にできる内容となっている。(P.56,62,107,裏表紙)</p>	<p>○打楽器の基本的奏法についても多く掲載されており、写真とともにわかりやすくまとめられており、アンサンブルや創作の活動で学習しやすい。(P.70～74)</p> <p>○リコーダーの学習ページでは、楽曲で使われている新出音の運指がそのページに記されていて分かりやすい。(P.20,24,29,30)</p>	<p>○資質・能力と学習の支えとなる音楽の要素とが関連付けられていて、視覚的にわかりやすく示されているため、意識して学習できる。</p> <p>○比較的平易で親しみやすい楽曲が取り上げられており、基礎・基本の定着を図ることができるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

美術

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
D	<p>○「紙でつくる」、「焼きものをつくる」(1年)、「明かりの形」、「織る、編む、組む」(2・3年)など、工芸の題材が充実している。</p> <p>○2・3年の鑑賞ページでは、美術史の分野(ルネサンス、ロマン主義、印象派など)が豊富である。</p>	<p>○2・3年の「まとめ」の項(2・3年p62-63)では、美術を通して社会とかかわるといふ教科の特質がまとめられている。</p>	<p>○1年の最初に「学びの地図」(1年p6)として3年間の学習の見通しを示している。</p> <p>○各領域ごとに、「絵や彫刻で学ぶこと」「工芸やデザインで学ぶこと」というガイダンスがあり、意欲をもたせる工夫がある。</p>	<p>○「誰にでもわかりやすく伝える」(2・3年p70)は、パンフレットや広告などのさまざまなデザインに応用できる題材になっている。</p>	<p>○各ページ下部に、他教科との関連がわかりやすく示してあり、カリキュラムマネジメントを図りやすい。</p> <p>○「暮らしに生きる美術」(2・3年p6)では、落語家や保育士などの様々な職業の人にインタビューし、実生活と美術との関連に気づくことができる。</p>	<p>○教科書ごとに副題がつけられ(1年「発見と創造」2・3年「探求と継承」)、その意味が表紙の次のページに美術の持つ意味として示されている。</p>	<p>○工芸の題材や、独立した鑑賞の題材が豊富で、偏りなく学習を進めることができる。</p> <p>○他教科との関連が明確に記されているため、意識して指導しやすい。</p>
I	<p>○「みんなの工夫」として、主題生成からアイデアスケッチなどの構想、実際の表現の工夫までの例が具体的に示されている。</p> <p>○各題材で、「鑑賞」から「表現」、事後の「鑑賞」と、構成に統一性があり、授業をイメージしたつくりになっている。</p>	<p>○「表現中心の題材」と、「鑑賞中心の題材」がバランスよく配列されている。</p> <p>○対話的な学びによる作品鑑賞(1年p21)や、2つの作品の比較鑑賞(2・3年p24, p36)ができるよう、工夫されている。</p>	<p>○トレーシングペーパー(2・3年p10)や和紙(2・3年p37)など、紙の材質が工夫されており、書き込んだり素材の感触を楽しんだりできるようにしている。</p> <p>○漫画や新しい映像メディア表現(2・3年p80)など、生徒の関心が高い身近な資料が掲載されている。</p>	<p>○「印象に残るシンボルマーク」(1年p46)には、島根県立美術館のロゴ、「日本の伝統工芸」(2・3年p97)には石見焼が掲載されている。</p> <p>○「文字で楽しく伝える」(1年p44)、「印象に残るシンボルマーク」(2・3年p46)、「地域の魅力を伝える」(2・3年p70)など、地域社会とのつながりやふろさと教育と関連させやすい題材設定になっている。</p>	<p>○他教科(国語科、数学科、社会科、家庭科、道徳科)とのつながりが詳しく示されており、カリキュラムマネジメントが図りやすい。</p> <p>○防災(2・3年p60)や環境(2・3年p62, 74)のデザインについて考えることで、デザインの役割を意識する工夫がされている。</p>	<p>○大型の図版が効果的に配置され、表現や鑑賞の際に細部が観察できたり、作者の息吹を感じたりできるように工夫されている。(1年p30, 2・3年表紙, p37)</p> <p>○生徒が実際に活動している場面の写真が多くあり、授業がイメージしやすい。(1年p12, 14など)</p>	<p>○鑑賞から表現へのつながりや、主題や発想の広げ方、「学習を支える資料」ページなど、実際の授業をイメージしやすい工夫がされている。</p> <p>○表現をする際の、発想・構想の手順やヒントが丁寧に掲載されている。</p>

選定に必要な資料

美術

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
0	<p>○1年は「美術との出会い」、2・3年は上「学びの実感と広がり」、下「学びの探求と未来」に分かれる3冊構成になっており、発達に応じて題材や目標が設定しやすくなっている。</p> <p>○題材が豊富で、学校や地域の実態に応じて選択できる。</p>	<p>○生徒作品とともに、「作者の言葉」がコメント形式で載っており、生徒も参考にしながら取り組みやすい。</p> <p>○伝統的な作品から、近現代の美術まで、幅広い視点で題材が構成されている。</p>	<p>○生徒の意欲を引き出すメインタイトルや、活動や目的を示すサブタイトルを示し、内容や活動がつかみやすいよう工夫されている。</p> <p>○3年間の美術科での学びのガイダンス(1年p6)や、各領域のガイダンス(1年p10, p38)がわかりやすく示されている。</p>	<p>○題材ごとに、学習指導要領に基づいた3つの「学びの目標」が示されている。</p> <p>○各巻冒頭に、「この教科書で学ぶみなさんへ」と題して、教科書の使い方や編集の意図が示してあり、生徒だけでなく授業者にとっても使いやすい。</p>	<p>○「祭りを彩る造形(1年p56)」、「日本の世界文化遺産(2・3年下p52)」など、日本の文化や全国の世界遺産が紹介されており、他教科とも関連して学ぶことができる。</p> <p>○「社会に生きる美術の力」(2・3年下p58)などに、様々な職業と美術の関係が掲載されており、キャリア教育との関連が意識されている。</p>	<p>○A4ワイドの作りを効果的に生かし、風神雷神(1年p32)やゲルニカ(2・3年下p26)の折り込みページなど、迫力のある鑑賞ができる。</p> <p>○「学びを支える資料」に、授業での発想・構想の方法や、アーティストの構想の例を載せ(1年p58)、参考になるよう工夫されている。</p>	<p>○学習指導要領に基づいた3つの目標が明確に示され、目標に即した授業展開がしやすい。</p> <p>○3冊構成になっていることで、題材の掲載数が増え、発達段階や学校・地域の実態に応じた題材選択が可能である。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育

NO. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括 (感性を育む要素を含む)	
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫		6. その他
A	<p>○各章扉に、小学校で学習したことや高校で学習することが示されており、系統的に見通しを持って学習できるよう工夫されている。(p. 5, 49)</p> <p>○各ページの余白を広く設けてあり、本文や資料が見やすいよう配慮されている。(p. 14, 15)</p> <p>○資料、章末資料、学習のまとめの字が小さく見にくい。</p> <p>○図が少し小さい</p>	<p>○「見つける」で課題をつかむところから始まり、「課題の解決」、「活用する」、「広げる」と学習の流れがわかりやすいようレイアウトが工夫されている。(p. 62, 63)</p> <p>○各章末に「確認の問題」、「活用の問題」、「日常生活に生かそう」が準備されており、学習内容が定着するよう工夫されている。(p. 89, 90)</p>	<p>○キャラクターが学習のヒントやポイントを伝えることで、生徒が興味・関心を持ちながら学習できるよう配慮されている。(p. 10)</p> <p>○学習内容に関連する読み物資料を掲載し、興味・関心を高め、学習内容が深められるよう工夫されている。(p. 21, 33)</p> <p>○各章に入る際に偉人の紹介がしてあり、興味・関心を高める工夫がされている。</p> <p>○資料が数値化されたもの(データ)が多くていいが中学生には読み取るのに少し難しいことが考えられる。</p>	<p>○各章の終末に「インターネットと依存症」「SDGsから考えよう」などの今日的な課題に関する資料が掲載され、探究的な学習ができるよう工夫されている。(p. 109, 166)</p> <p>○各時間の「活用する」では、自分の意見をまとめて発表する活動を通して、学習内容を活用して思考力・判断力・表現力を高められるよう工夫されている。(p. 99, 101)</p>	<p>○「広げる」では、自分たちの生活や身近な地域について考えるよう促し、家庭や社会生活に関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 73, 161)</p> <p>○人間関係やストレスへの対処について、体験的に身に付ける演習が用意されており、具体的な対応を身に付けることができるよう工夫されている。(p. 39, 45)</p> <p>○学習のまとめの確認問題では、日常生活に生かそうという欄があり、自己の生活を振り返り、今後生活に生かせるようになっている。</p>	<p>○学習内容に関連する動画やシミュレーションなどをインターネットで学べるコンテンツが用意されており、学習を支援し理解度を高められるよう工夫されている。(p. 1)</p> <p>○感染症について、手洗いの方法を写真付きで掲載し、生徒が感染症の予防について具体的に学習できるよう工夫されている。(p. 165)</p> <p>○現代の死因で最も多いがんについて特集資料で治療法を詳しく説明している。</p>	<p>○各時間の冒頭の「見つけよう」でつかんだ学習課題について、資料を手掛かりにして、課題解決につなげていけるよう配慮されている。(p. 22, 23)</p> <p>○各章扉に、「この章で学習すること」とともに、他教科とのつながりや、学習内容に関わりのある偉人の紹介があり、生徒が興味を持って学習できるよう工夫されている。(p. 91)</p>
B	<p>○各章扉には中学生の写真が掲載され、下方部に小学校で学習してきたことや、高等学校で学習することが示され、これまでの学習が今につながり、今の学習が将来につながる見通しがもてるよう工夫されている。(p. 15)</p> <p>○学習内容と関連した資料の注釈が見出しについており、本文の内容と資料との関係が分かりやすく記載されている。(p. 90, 91)</p> <p>○毎時間学習のねらい・つかもう・やってみよう・活用して深めようなど授業の流れが分かりやすくなっている。</p> <p>なかでもつかもうや深めようでは、自分の考えを持って授業に入り、学習することで自分の考えを見直し深められるようになっている。</p>	<p>○左ページが本文内容、右ページが関連資料になっており、生徒が学習内容を整理しやすいよう配慮されている。(p. 16)</p> <p>○各時間のタイトルのすぐ右に「学習のねらい」として、目標をわかりやすく示すことで、学習内容の見通しが持てるよう工夫されている。(p. 8, 30)</p>	<p>○学習内容と関連の深い話題や読み物が「ミニ知識」や「トピックス」として紹介され、学習を広げたり、深めたりできるよう工夫されている。(p. 72, 73)</p> <p>○大きく、強い印象をうける写真が使用されており、生徒の興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 100, 101)</p> <p>○トピックスでは国際的な考え方の中で日本の実態を踏まえ、良さや文化を生かしていくためにどうすればよいかを考える内容となっている。</p>	<p>○心肺蘇生法の手順が折り込み式のページで掲載され、流れと方法を同時に見ることができ、生徒が理解しやすいよう工夫されている。(p. 107, 109)</p> <p>○各時間に「話し合ってみよう」や「やってみよう」が設定してあり、資料を参考に、学びを深めることができるよう工夫されている。(p. 73)</p> <p>○基本的に毎時間、課題解決学習が取り入れられており「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」という活動が取り入れられており、新学習指導要領の「表現・言語活動」が生かされる授業構成となっている</p>	<p>○現代的な課題である、スマートフォンなどの情報機器の活用について、口絵に資料を設け、日常生活において生徒の意識が高まるよう配慮されている。(口絵p. 13, 14)</p> <p>○関連した内容を学習するページを示す「リンク」が設けられ、学習内容のつながりを意識した学習ができるよう配慮されている。(p. 20, 56, 150)</p> <p>○体育理論では、第2章の章末資料では体力向上として様々なスポーツでどんな力が身に付くか図をもとにして分かりやすく説明されている。</p>	<p>○各章間の資料に「中学校保健体育Web」があり、関連内容を動画や資料を使って、より深い学びができるよう工夫されている。(p. 124)</p> <p>○各章末の「学びを活かそう」のページで、学習したことを普段の生活でどう生かすのか考えることができるよう工夫されている。(p. 27)</p> <p>○章末資料では単元で学習したことを事例を用いて学びが生かされるよう工夫されている。</p>	<p>○左ページが本文内容、右ページが関連資料になっており、生徒が学習内容を整理しやすいよう配慮されている。(p. 16)</p> <p>○関連した内容を学習するページを示す「リンク」が教科書の同一場所に示されており、生徒がどこに何が書いてあるか分かりやすく。見通しをもって学習できるよう工夫されている。(p. 24, 60)</p> <p>○見開き2ページを1時間で授業ができるよう工夫されており、そのうち1ページは図でわかりやすく説明されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

保健体育

NO. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
K	<p>○現代的な課題である「がん教育」として特設ページを設けている。(p. 80-83, 93)</p> <p>○文字数が少なく、コンパクトにまとめられている。</p> <p>○資料を見ながら視覚的に理解できるよう工夫されている。(p. 100, 101)</p> <p>○重要語句(太字)の説明には必ず資料の添えられており分かりやすい。</p>	<p>○「今日の学習」として、目標をわかりやすく示すことで、学習内容の見通しがもてるよう工夫されている。(p. 81, 85, 87)</p> <p>○「章のまとめ」では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「学びに向かって」の問題が用意されており、各観点に沿った学習の振り返りができるように工夫されている。しかし、少し字が小さいので解く気持ちになれない。(p. 118, 119)</p> <p>○特集資料では、内容が難しかったり具体性に欠け、説明が分かりにくいものがある。(P117)</p> <p>(具体性に欠ける：例→竜巻の避難場所として安全な建物。安全な建物とは?)</p> <p>(内容が難しい：離岸流・免疫と食物アレルギー)</p>	<p>○各時間の学習の冒頭に「課題をつかむ」では、実生活の起きそうな事例をあげ、導入時に生徒の興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 108)</p> <p>○中学生の興味・関心の高い話題や心に響く事例等を「コラム」として掲載し、学習意欲を高められるよう工夫されている。(p. 76, 102)</p>	<p>○学んだことを実際の場面に当てはめて考える課題を設け、教科書に解答を書き込むことで、学習内容を生活場面で生かせるよう工夫されている。(p. 41, 43, 47)</p> <p>○県の課題である体力の向上について、その要素を詳しく示し、自主的に体力向上のための計画を立てることができるよう工夫されている。(p. 62, 63)</p>	<p>○各章扉に、これから学習する内容が、学校や地域での自分たちの生活とどう関わっているのかが示されている。学習内容を自分や実生活と結びつけながら考えることができるよう工夫されている。(p. 28, 29)</p> <p>○特に災害における問題ではSNSによる災害情報の大切さや危険性についても説明がされている。(P107)</p> <p>○保健の窓は現代の社会的情勢を踏まえながら中学生に起こりうる危険性を取り上げ考えが深められるよう工夫されている。(P169)</p> <p>○「他教科」マークにより、本時の学習内容と関連のある教科がわかりやすいよう工夫されている。(p. 30, 158, 171)</p>	<p>○「web保体情報館」にアクセスすることで外部サイトが利用でき、多くの情報を活用して深く学ぶことができるよう工夫されている。(p. 79, 81)</p> <p>○感染症について、6ページにわたって記載しており、時間をかけて、深い学習ができるよう工夫されている。(p. 134-139)</p>	<p>○各章扉に、これから学習する内容が、学校や地域での自分たちの生活とどう関わっているのかが示されている。学習内容を自分や実生活と結びつけながら考えることができるよう工夫されている。(p. 28, 29)</p> <p>○各時間の「課題をつかむ」で、中学生にとって身近な話題を取り上げることによって、自分事として課題意識を持つことができるよう工夫されている。(p. 38)</p>
P	<p>○各章扉では、小・中・高それぞれの段階での学習内容を示すことで、系統性を重視し、見通しが持てるよう工夫されている。(p. 42)</p> <p>○小口の色分けインデックスにより、体育編、保健編について、どの学年でどの内容を学習するのか視覚的に理解でき、3年間の見通しを持つことができるよう工夫されている。</p>	<p>○各時間の冒頭に「学習の目標」と「キーワード」が設けられており、1時間の学習の流れを見通すことができるよう工夫されている。(p. 46)</p> <p>○重要な文章には番号が振ってあり、補足説明がなされておりわかりやすい。</p> <p>○「章のまとめ」では、問題だけでなく、「振り返ろう」で各章での学習を振り返り、自己評価できるように工夫されている。(p. 68, 69)</p> <p>○1年間で学習した内容が確認できるよう各学年の最後に体育理論・保健分野それぞれで振り返りができるようにしている。</p>	<p>○キャラクターの吹き出しによる課題解決につながる言葉かけによって、生徒が興味・関心をもつとともに、補足内容を理解しやすいよう工夫されている。(p. 91)</p> <p>○各ページには補足的な内容や発展的な内容が取り扱われている「情報サプリ」が設けてあり、学習内容への興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 179)</p>	<p>○「探究しようよ！」が章末にページ数を多く配置され、学習内容をより掘り下げ、発展的に学習でき学びが深められるよう工夫されている。(p. 102-104)</p> <p>○各時間の「まとめる・深める」で話し合いや記述、発表などの対話的な活動が取り入れられ、言語活動や協働的な学びが促されるよう工夫されている。(p. 109, 113)</p>	<p>○各章に学習内容に関連する人物の名言や功績、職業や資格などを紹介し、学習内容と社会との関連を実感できるようになっている。(p. 15, 73, 137)</p> <p>○人間関係やストレスへの対処について、体験的に身に付ける演習が用意されており、具体的な対応を身に付けることができるよう工夫されている。(p. 57, 67)</p> <p>○まとめる・深めるでは実生活で起こりうることを事例に学んだ知識を活用して考えさせるようになっている。</p> <p>○情報サプリやコラム併用の社会情勢を考慮した資料が授業の内容と関連付けられており学習内容が深められるよう工夫されている。(P93)</p>	<p>○教科書サイトを利用して、専門サイトにつながり、より詳しく、深い学びができるよう工夫されている。(p. 92, 99)</p> <p>○巻末にキーワード別に内容がまとめられており、体育編、保健編、他教科等を横断的に学ぶことができるよう工夫されている。(p. 190, 191)</p>	<p>○毎時間学習のねらいに対して課題をどうつかみ同様の流れで学習していくかが分かりやすい。また、キーワードや重要語句や文章を分かりやすく説明されていることにより「まとめる深める」で対話的活動が取り入れられ、表現、協働的な活動が促される。</p> <p>○現代的な課題である「がん教育」について、「探究しようよ！」で取り上げ、重点的に学習できるように工夫されている。(p. 102, 103)</p> <p>○利用や図が新しいものが多い。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（技術分野）

NO. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>◇設計・計画の後に問題解決に必要な基礎技能をまとめたもの(テックラボ)と問題解決例が集約されている(P50-P75)。 ◇新しいものもたくさん紹介されており、資料の種類も豊富である(P198-199)。</p>	<p>◇最初に技術の見方・考え方や技術の最適化について示されていて、学習指導要領改訂の趣旨が反映されている。 ◇問題発見、課題設定、問題解決の過程が分かりやすい構成となっている(P102)。 ◇各内容の最後に設けてある学習のまとめが、観点別評価ができるようになっていてわかりやすい・使いやすい(P86-87, 136-137)。</p>	<p>◇各ページの欄外に「技術の工夫」が紹介されており、興味・関心を膨らませる手助けとなる。 ◇各編の最初に、技術の見方・考え方や技術の最適化が示して、興味・関心を高める工夫(P138-139)がされている。 ◇技術による問題解決の例など考えさせやすい工夫がされている(P36)。 ◇それぞれの題材に「私の工夫」として発展例が示してある(P68-75)。</p>	<p>◇安全について、巻頭でふれるとともに、実習を伴うページに「安全」、「衛生」として写真やイラストと共に示されている(P4-5, 32-33)。</p>	<p>◇栽培カレンダーに、調理例が示してあり、家庭科や日常生活と結びつけやすい(P106)。 ◇他教科や小学校の内容とのリンクが分かりやすいようにマークで示されている(P24-25)。</p>	<p>◇プログラミング手帳が別冊付録になっていて使いやすい。 ◇巻末に用語解説が設けてあり、自分で学習する際の手助けとなる(P286-288)。 ◇調べやすいように爪が設けられている。 ◇分かりやすい色使いやマーク使いをしている。</p>	<p>◇内容や情報量が豊富な反面、専門的すぎたり難し過ぎたりする部分もあり、指導するにあたって時間配分や軽重を十分に考える必要がある(玄人向けである)。 ◇全体的に文章が長く、文字も小さくて読みにくい傾向がある。</p>
C	<p>◇基礎・基本がしっかりと押さえられる内容で、図や写真も多く、説明が分かりやすい。 ◇何もかも載せるのではなく、適当な内容・程度に絞られている。 ◇技術分野で取り組む、課題発見、課題解決の方法を学ぶ、振り返る、の過程が繰り返し示されている(P22-23, 142-143)。</p>	<p>◇複数の素材を用いた題材例を多数掲載している。また、1つの題材に複数ページを割き、作業手順を丁寧に説明している(P50-69)。 ◇すべての内容項目が、3～4章の共通の構成になっている。</p>	<p>◇各内容の始めに、最新技術や、技術の発展例を紹介して、興味・関心を高めるようにしてある(P10-11, 78-79, 186-187)。 ◇それぞれの題材に「センパイのアレンジ例」として発展例が示してある(P55, 61, 67)。</p>	<p>◇栽培スペースや用具が限られている学校でも対応できる題材を取り扱っている(P86-87, 98-105)。 ◇安全について巻頭で触れるとともに、各内容の実習前にも複数ページを使って示されている(P4-5, 24-25, 84-85, 132-133)。</p>	<p>◇より良い技術の活用のために、技術のプラス面とマイナス面を示して、学びを深められるようにしている(P114-115)。 ◇巻末資料として「先輩からのメッセージ」が掲載されている(P284-285)。</p>	<p>◇巻末切り取りにA～D設計計画表が付いている。 ◇基礎技能が別冊『技術ハンドブック』にまとめられているので指導及び学習がしやすい。 ◇余白が十分で、文字も大きく、また、文章が短めで読みやすい。 ◇内容や情報が精選されており、また、作業の動画が用意されているので、指導経験の少ない教員や生徒自身にとって指導及び学習しやすい。反面、より高度なものや発展的なものをするときには、自分で資料等を準備する必要がある。</p>	

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（技術分野）

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
D	<p>◇巻頭のガイダンスで「生活や社会における技術の役割」について細かく説明している。</p>	<p>◇学習項目ごとに目標を、各章の最後には学習を振り返る場面を設けている。(P24, 92-93, 96, 138-139)。 ◇体験的な学習や実験例を多数掲載している(P28-29, 168)。</p>	<p>◇各ページの欄外には「豆知識」が、右上にはその章に関するものの写真が紹介されており、興味・関心を膨らませる手助けとなる。 ◇ページ右下の二次元コードを読み込むことで、関連した動画が視聴できるようにしている(P29, 37)。</p>	<p>◇安全について巻頭で触れるとともに、実習を伴うページでは「安全」マークで注意を喚起している(P4-5, 70)。 ◇問題を発見し、課題を設定するために、身近な生活や社会とのつながりを意識したイラストや写真を掲載している(P46-47, 70)。</p>	<p>◇巻末で生徒の身近なツールである携帯電話のトラブルについて、取り上げている(P295-296)。 ◇巻末資料として「コンピュータの基本操作、プログラミング」が掲載されている(P270-287)。 ◇問題の発見と課題の設定の場面で、社会とのつながりを明示している(P56, 60, 120)。</p>	<p>◇巻末で、日本各地の伝統的な技・材料・工芸の紹介がされている(P292-294)。 ◇イラストや写真名などにおいて、男女の平等などに留意してある。</p>	<p>◇図や表は色合いが濃く、文字も鮮明で目立つが、人によっては刺激が強すぎるかもしれない。 ◇全体的に文字が小さく、強調されていないところや本文は読みにくい感じがある。 ◇どの章も、特に詳しくすることも、わかりやすいこともなく、他2社の中間といった感じがする。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（家庭分野）

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○内容を5編に分け、学習を系統的に進めることができるように示し「問題を解決する道筋」がわかりやすく示してある。</p> <p>○各編の導入ページの右側には「家庭生活のそれぞれの流れ」が写真入りで示してあり、家族・家庭の基本的な機能を知ることができるよう明記してある。(P. 107, 185 等)</p> <p>○各章の実習例が豊富であり、題材の選択の工夫ができ、実践的な学習活動ができるように工夫している。(p. 72～89等)</p> <p>○技能の確実な習得のために、絵や写真を用いてわかりやすく示している。(p. 58, 127等)</p>	<p>○各編の終わりに「学習のまとめ」を設定し、自己評価に基づき学習内容の理解を深めることができるようにしている。「生活に生かそう」という項目設定により、家庭生活での実践について考えることができる。(p. 100, 157)</p> <p>○各編各章の始めに「調べてみよう」「考えてみよう」[やってみよう]という欄があり、学習の導入に生かし見通しを持った学習をすることができるようにしている。(p. 30, 90等)</p>	<p>○p. 2に示してある4人の中学生「いっしょに学習する仲間」が、イラストとして効果的に示されている。(p. 32, 93)</p> <p>○導入として、3年間の学習内容について、14ページに渡って「家庭分野のガイドダンス」が掲載され、意欲を高める工夫がされている。</p> <p>○全国各地のいろいろな特徴について知るために、写真・イラスト・図表が効果的に提示されている。(p. 93, 166等)</p> <p>○調理実習について、写真で調理方法等がわかりやすく示され、学習への意欲を引き出す工夫がされている。(p. 82, 83等)</p>	<p>○実物大の物を写真で提示しており、実生活に結びつけて考えることができる工夫がされている。(p. 37～39, 226等)</p> <p>○保育実習について、3例をあげ、各校の実態に応じて実施できるように配慮されている。(p. 242～247)</p>	<p>○実生活に生かす内容として、ページの下に「せいかつメモ」欄があり、家庭生活の豆知識が記述してある。</p> <p>○他教科との関連について「他教科マーク」を提示している。(p. 94～95等)</p> <p>○4編以外に「選択」の章を設定し、自分の生活の課題と実践について詳しく提示しており、実生活に生かすことができる工夫がされている。(p. 268～277)</p>	<p>○実習や生活で実践するときに必要となる基礎的な技能を確認するために「いつも確かめよう」というページを設定して、わかりやすく提示している。(p. 130～131等)</p> <p>○巻末付録として「防災・減災手帳」「子どもの視界体験眼鏡」等が切り取って使うことができるようになっており、生活に生かすことができる。</p>	<p>○実践的・体験的な学習活動ができるように、実習・題材例が工夫されている。</p> <p>○口絵・図・写真等が工夫され、関心・意欲を喚起させる内容となっている。</p> <p>○学習の評価を適切に実施できるよう配慮されている。</p>
C	<p>○生活の中でつながるA編「家族・家庭生活」B編「衣食住の生活」C編「消費生活・環境」を関連させながら学習することができる内容である。</p> <p>○各編第1章の始めに「自立度チェック」が示してあり、自分自身の生活を振り返ることができる。(p. 13, 239等)</p>	<p>○「やってみよう」のページは、①見つめる⇒②学ぶ⇒③ふり返るという3ステップで構成されており、主体的・対話的な学びを通して学習に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○各編の最後に「学習のふり返り」が掲載され、直接記入できる。(p. 68, 234, 280)</p> <p>○「選択」として、生活をよりよくするための「生活の課題と実践」について掲載され、課題設定がしやすいように工夫している。(p. 282～291)</p>	<p>○目次に示してある4人の中学生と2人の先生のイラストが効果的に示されている。(p. 88, 131等)</p> <p>○基礎的・基本的用語について「キーワード」が示され、知識の定着を図る工夫がされている。(p. 40, 178等)</p> <p>○図や写真が効果的に使われ、生徒の興味・関心をひく内容となっている。(p. 226～227)</p>	<p>○巻頭見開きページに「年中行事」について、イラストと写真でわかりやすく掲載し、関心意欲を高めるとともに、自分の住む地域の行事について目を向ける工夫がされている。(口絵3～p. 1)</p> <p>○「消費者教育」について、海外にも目を向ける内容のコラムが掲載され、人権の尊重や福祉の視点に立った内容が組み込まれている。(p. 270)</p>	<p>○学んだことを生かして自分の課題に取り組むことができるように、課題設定のヒントや例を示し、学びを生かす工夫がされている。(p. 32～33, 78～79等)</p> <p>○「発展」マークで示したページに提示してあり、興味・関心を高めることができる内容となっている。(P. 50, 141等)</p>	<p>○章末のまとめとして、左ページに「学習のふり返り」を設定し、右ページには、学びを人生や社会にどう生かすかを知るために「センパイに聞こう」というメッセージを掲載している。(p. 68～69, 280～281等)</p>	<p>○図表や写真等の資料が豊富であり、本文のレイアウトが統一され、学習の流れを把握しやすくなっている。</p> <p>○防災意識を高めるために、防災のマークで資料が掲載され、実生活に生かすことができる内容が示されている。(p. 185, P. 68, 69等)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

技術・家庭（家庭分野）

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
D	<p>○各章の終末の「学習のまとめ」以外に、「ふり返り」「生活にいかそう」が設定され、学習内容の理解を確認できるように提示してある。(p. 151等)</p> <p>○学習内容を、A「家族・家庭生活」B「衣食住の生活」C「消費生活・環境」の3つに分け、基礎・基本の習得を目指した学習内容となっている。</p>	<p>○「持続可能な社会」を指し、課題を見つけ、実践的に取り組むために、学習のまとめごとにより具体例を提示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な家庭生活 p. 64～65 ・持続可能な食生活 p. 202～203 ・持続可能な衣生活 p. 222～223 ・持続可能な社会 p. 256～263 <p>○写真等を使った豊富な事例で、地域性や伝統文化との関連を重視している。(p. 142～143, 282～283等)</p>	<p>○「参考」というマークでは、学習内容に関して参考となる資料が示されており、知識を深めることができる。(p. 25, 29, 104等)</p> <p>○参考資料として「先輩からのエール」を提示し、社会人からのわかりやすいメッセージを伝え、将来を描く力を育むことができるように工夫している。(p. 154, 224等)</p> <p>○年齢による手の大きさを実物大で示し、学習に対する興味関心を高める工夫をしている。(p. 14, 15)</p>	<p>○学校の実態に応じて選択できるように、多種多様な実習例や製作例が提示してある。(p. 188～195等)</p> <p>○「主体的・対話的で深い学びをする」ことができるように、学習の流れが明確に記載されている。(P. 126, 127等)</p>	<p>○A～Cの学習内容以外に「生活の課題と実践」として、実践の進め方や具体的な課題例を取り上げ、学習効果を高めることができるようにしている。(p. 266～277)</p> <p>○他教科との関連について「他教科」マークで示しており、他教科で学習した内容を思い出しながら学習に取り組むことができる。(p. 78～79等)</p>	<p>○食品に関する学習内容で、実物大の写真を提示し、わかりやすい折込を設定している。(p. 88～93)</p> <p>○実物大の写真でお弁当を提示し、栄養のバランスについて考えやすくする工夫をしている。(p. 94)</p>	<p>○興味・関心をひく豊富な題材を提示しており、課題の設定のヒントとして、学習に効果的である。</p> <p>○対話的な学習が展開できるように「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」などの小課題が的確に示されている。(p. 101, 216等)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

英語

NO. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○内容、程度、分量ともほぼ妥当であると思われる。</p> <p>○各学年は1年11Unit(167ページ)、2年7Unit(159ページ)、3年6Unit(155ページ)で構成されている。</p> <p>○1年冒頭に、小学校英語科の「聞く」「話す」活動から入り、それから文字に関する内容を扱っており、入門期として小学校英語との接続を意識した内容が用意されている。</p> <p>○合計8つの読み物教材があり、図表も合わせて必要な情報を読み取るものや、読んだ内容に応じて自分の考えをまとめるものなど、目的に応じた読み方が指導できるよう工夫されている。</p>	<p>○Mini Activity → Unit Activity → Stage Activity という順で、全体を通して発表に向けて活動を系統的に積み上げており、Unitで学んだ成果を確認できる構成である。</p> <p>○各学年、Unit0があり、前学年の復習をすることができる構成である。(1年Unit0は小学校の復習)</p> <p>○Unit、Let'sシリーズ、Stage Activityの3つの主要単元で知識・技能の習得を繰り返しながら思考力・判断力・表現力が育成できる構成である。</p>	<p>○各単元の冒頭で写真を基に英語で生徒とやり取りし、題材内容への興味を高める工夫がある。</p> <p>○内容理解に役立つイラストや図版がふんだんに盛り込まれ、興味・関心を広げる補足的な情報等を掲載している。</p> <p>○3年間を通して題材や人物の出身国が英語圏だけでなく、多様な世界の国々から設定されている。また、話題も多岐にわたり、生徒が興味・関心を持ち、視野を広げることができる。</p>	<p>○「学び方コーナー」では、辞書の使い方や単語の覚え方、つづりと発音、文構造などが取り上げられ、視覚的にもわかりやすい。3年間を通してまとまりのある英文が書けるよう工夫されており、地域の英語課題である英作文力について対応が可能である。また、英語学習のポイントも示しており、生徒の学びに向かう力の育成へもつなげることができる。</p> <p>○Grammar for Communicationでは、文法を解説し、何度でも見直して自学自習ができるようにしている。</p>	<p>○Let'sシリーズでは、各技能領域に特化した活動を行い、実生活に即した場面が盛り込まれ、目的・場面・状況に合わせたコミュニケーション能力を伸ばせる工夫がある。</p> <p>○Learning…in Englishでは、他教科で学んだことを英語の視点で学ぶことができる。</p> <p>○SDGsの実現を目指した題材を取り上げ、今日的課題に向き合い積極的に世界とつながろうとする心が育めるようなテーマが多い。</p>	<p>○1年時にはすべて手書き文字に近い書体を用いていたり、第2線と第3線の幅をやや広くし、小文字を書きやすくしたりするなど、初期学習者への配慮がある。</p> <p>○3年生のStage Activityではディベートが扱われており、自分の考えを整理し、理論的に相手に伝える力を養ったり、主張に対して反対意見を述べたりするなど、即興性を伸ばす工夫がされている。</p> <p>○紙面にQRコードが付されており、家庭でも音声を活用した学習をすることができる。</p>	<p>○各単元のすべての冒頭に到達点(目標)を示しており、巻末には各学年・各学期の到達点をCAN-DOリストとして載せ、明確な到達点に向かって学習が進められるようにしている。</p> <p>○A3サイズに拡大し、イラストや写真も豊富で効果的に掲載されている。</p> <p>○各単元の始めに単元を貫く問いを示し、最後にもう一度問いかけて生徒が自身の考えを深める手立てとしている。</p> <p>○グローバル社会で生きることを意識したり異文化を理解し尊重する心を育んだりするような題材がある。</p>
D	<p>○内容、程度、分量ともほぼ妥当であると思われる。</p> <p>○各学年は1年10PROGRAM(159ページ)、2年8PROGRAM(159ページ)、3年7PROGRAM(151ページ)で構成されている。</p> <p>○PROGRAMとは別にOur Projectとして1～3年まで一貫して発展的な活動に取り組み、表現力を養うよことができるよう工夫されている。</p>	<p>○Scenes、Think、Retell、Interact から各単元が構成されている。授業展開は言語材料の内容や生徒の実態に応じて柔軟な授業展開が組み換え可能になっている。</p> <p>○既習事項や語彙を使ってペアで行うSmall Talkのコーナー「Try」が各課で設けられており、巻末の「小学校で使う語彙」と組み合わせて使うことで、小学校の内容を定着させるような反復学習ができる。</p>	<p>○各単元最初のコーナーであるScenesでは、新出表現がどんな場面・状況・目的で使われるのかが漫画を通して視覚的に理解できるようになっている。</p> <p>また、ユーモアに富んだオムニバス形式のストーリー展開で生徒の興味・関心を引く。</p> <p>○巻末のアクションカード、クイックQ&A、つなぎことばや、生徒の興味を引くテーマでディスカッションする場面を設定するなど、コミュニケーションを活発にする資料が豊富である。</p>	<p>○巻末に「英語のできるようになったことリスト」があり、定期的に学習状況と成果が視覚的に振り返る工夫があり、学習者の意欲化が図られる。</p> <p>○本文の内容を自分の言葉で再話するRetellのコーナーがあり、習熟度に応じて段階を選択でき、表現力を身に付ける工夫がある。</p> <p>○Stepsでは簡単な表現に言い換えたりわかりやすい説明をする方法等が載っており、Our Projectがスムーズに進められるよう学習者に配慮がある。</p>	<p>○メモやマッピングを基に即興で会話をしたり発表したりという「話す力」が身に着くよう段階的に取り組めるような工夫がある。</p> <p>○題材は、日本の伝統文化、異文化理解、自然科学、SDGsに関するものなど多岐にわたり、豊かな心を育めるものが用意されている。</p>	<p>○1年生の前半時には手書き文字に近い書体で、後半は活字体に近いフォントで書かれており、段階に応じた文字指導の配慮がある。</p> <p>○紙面にQRコードが付されており、家庭でも音声を活用した学習をすることができる。</p>	<p>○3年間を通して4技能5領域を活用するパフォーマンス活動Our Projectが配置されている。</p> <p>○イラストや写真が豊富で、視覚的に読解をサポートするよう工夫が凝らされている。</p> <p>○各単元のとびらに、目標や評価の観点を示されているため、見通しを持って学習できるようにしている。</p> <p>○人権、教育、平和、環境、異文化理解など、生徒が自分たちの立場で考える今日的な課題を取り扱っている。また、広い視野と豊かな感性を育めるよう工夫されている。</p>

選定に必要な資料

英語

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
F	<p>○内容、程度、分量ともほぼ妥当であると思われる。 ○各学年は1年8Lesson(147ページ)、2年7Lesson(125ページ)、3年7Lesson(129ページ)で構成されている。また、各学年に40~60ページの付録がある。 ○内容は学校や家庭、地域での生活といった身近な日常的なものから、環境や人権問題などの社会的なものまで多岐にわたる。 ○楽しみながら物語を読むReading for Funや必要な情報を読み取るReading for Informationなど、バランスよく学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年、Lesson1の前にStarterというコーナーがあり、全学年の復習ができる構成になっている。(1年生は小学校の復習) ○各LessonではGETとUSEで構成されており、段階的に新出の文構造・表現を適切に使えるように設定されている。</p>	<p>○各Lessonのとびらには、写真やQ&Aを使ってその課の題材や場面を導入し、生徒が学習への動機づけができるような工夫がある。 また、学習内容とゴールも明示されており、見通しを立てやすい配慮がある。 ○Reading For Communicationでは、世界の名作を原作とした物語を扱い、内容を楽しみながら読む力を高める工夫がされている。</p>	<p>○CAN-DOリストを参照し「できるようになったこと」や苦手な領域や活動を振り返り、自分に合った学びを身につけられる工夫がある。 ○For Self-studyでは、単語の覚え方や教科書以外での英語に触れる意義等が書かれており、自律的な学習をサポートしている。</p>	<p>○伝統文化、異文化理解、自然理解、社会理解、人間理解など、他教科との関連を意識した題材が取り上げられている。 ○USE Writeでは、日記、手紙、メール、レポートなど、実生活に結びつく内容を扱い、生徒がそれぞれの個性を発揮しながらまとまりのある英文を書く活動に取り組めるよう工夫されている。 ○Take Action!では、日常会話や買い物の場面等、身近な場面で使えるフレーズや表現を学べるようになっている。</p>	<p>○1年の冒頭時では、小学校の学びを振り返りながら、文字を正確に書けるかどうか、手本を見ながら単語や文を書けるかどうか確認でき、文字指導に配慮がある。 ○ジャンルごとに単語がまとめられているコーナーがあり、関連付けて覚えられようようにしているとともに、会話の例文も載せてありコミュニケーション活動にも活用できる。 ○紙面にQRコードが付されており、家庭でも音声を活用した学習をすることができる。</p>	<p>○題材は、社会への主体的な参画、平和、自然科学、日本の伝統文化、異文化理解など、生徒の知的欲求に合致するものや人間性を育むものが幅広く選択されている。 ○3年間を通して既習の言語材料を活用する力を養うProjectのコーナーがあり、生徒が想像力をかき立て、アイデアが生かせるようなテーマを設定している。</p>
G	<p>○内容、程度、分量ともほぼ妥当であると思われる。 ○1年9Lesson(163ページ)、2年9Lesson(167ページ)、3年7Lesson(167ページ)で構成されている。 ○各Lessonの最後にReview、Task、Grammarが用意されており、十分に復習ができるよう工夫されている。</p>	<p>○Projectでは、場面に応じてLessonで学んだ表現を総合的に活用できるような活動が工夫されている。 ○Lessonで学習した表現を活用できるよう、チャット活動やゲーム形式の活動がActivities Plusとして本編とは別に用意されている。</p>	<p>○表紙見開きに、特定のLessonに関連する写真があり、生徒の興味・関心をひく工夫がある。 ○Partごとの本文下にRead aloudのコーナーがあり、生徒がどれぐらい音読したか視覚的にわかるような配慮がされている。</p>	<p>○巻末に3学年分の「Can-Do自己チェックリスト」が掲載されており、自分の目標と関連個所や達成度を確認できるようになっている。 ○各PartにThink & Tryがあり、本文の内容理解だけでなく、自分の考えや感想を英語で述べることで思考力や判断力を高める工夫がされている。</p>	<p>○様々な標識の意味を考えたり、ニュースやCMの中で使われている英語を学んだり、日常生活から社会への視野を開く題材が扱われている。 ○職業体験や、働くことの意味や働き方が取り上げられている課があり、自らの将来につなげながら学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年巻末資料として掲載されているActivity PlusやWord Bankで英会話やスピーチで活用できる表現がまとめられている。 ○各学年の巻末カードにはすべてミシン加工が入っており、切り取って授業で活用できる工夫がこらされている。</p>	<p>○様々な分野で活躍する有名人の生き方に触れたり、文化や自然など題材が多岐にわたり、生徒が好奇心を伸ばし、思考力や感性を育むことができる読み物が扱われている。</p>

選定に必要な資料

英語

N O . 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
I	<p>○内容、程度、分量ともほぼ妥当であると思われる。</p> <p>○全学年8Unit(175ページ)で構成されている。</p> <p>○各PartでListen、Read、Speak、Writeの活動があり、新出事項の学習から表現活動までがスムーズに行えるよう工夫されている。</p>	<p>○2～3UnitごとにYou Can Do It!として、4技能を総合的に活用するコーナーがあり、学習内容が定着するよう工夫されている。</p> <p>○各Unitは、3つのPart→Goalという構成で一貫している。各Partで基礎的な知識・技能を習得し、Goalで技能統合的な活動に取り組むように構成されている。</p>	<p>○挿絵や写真など、文字以外の情報が豊富で、生徒の興味・関心を高める工夫がみられる。</p> <p>○各学年の冒頭で、各学年の目標、各学期の目標を明確に示してあり、英語学習について生徒が具体的にわかりやすい目標が持てるよう配慮されている。</p> <p>○巻末のActive Wordsでは、ジャンルごとに英単語が整理されており、生徒が自分で言葉を選んで話す意欲を高める工夫がある。</p>	<p>○巻頭に英語の学び方ガイドを設けて、各学年の学習方法のやり方を示すとともに、Your Coachで技能別の学び方のコツなどを紹介し、自律的学習者の育成につながるよう配慮されている。</p> <p>○巻末にCAN-DO Listを掲載し、生徒が自主的に目標の到達度をチェックし、次の学びにつなげることができるよう工夫されている。</p>	<p>○自分の学校や地域のよいところを考えて伝え合う言語活動が多い。</p> <p>○防災訓練や職場体験なども取り上げられており、身近な話題を考えることで社会との関連性を意識できるよう工夫されている。</p> <p>○各学年Daily Lifeでは、日常生活の場面を取り上げ、実生活とのつながりを意識して学習できるようになっている。</p>	<p>○各学年の巻末に「英語のしくみ」を設け、英語と日本語の違いを視覚的にとらえられるように工夫がされている。</p> <p>○紙面にQRコードが付されており、家庭でも音声を活用した学習をすることができる。</p>	<p>○様々な出身国の中学生が登場し、その中学生が交流し成長していく物語を通して、登場人物の互いを思いやる姿から豊かな情操と道徳心を培い、自分のこととして共感できるよう配慮されている。</p>
L	<p>○内容、程度、分量ともほぼ妥当であると思われる。</p> <p>○各学年は1年10Unit(151ページ)、2年8Unit(159ページ)、3年6Unit(143ページ)で構成されている。</p> <p>○各Unitの本文は、学年が上がるごとに長くなるよう構成されている。</p> <p>○内容は、寓話や英語落語や小説等、楽しく読めるものや、登場人物の心情を読み取ったり、生き方を学んだりできる読み物が掲載されている。</p>	<p>○各Unitの後にテーマに沿った長めの英文が載っているRead&Thinkのコーナーがあり、読解力が高められるよう工夫がされている。また、Unitのテーマに沿ったミニスピーチを作り発表するExpress Yourselfのコーナーがあり、文章構成を学び表現力がつくよう配慮されている。</p> <p>○1年生冒頭に、Let's Startを7課設け、小学校の復習と文字への意識づけを行えるよう配慮されている。</p>	<p>○各Unitのとびらにはその課で学習する目標が写真やイラストとともに明示されており、生徒が見通しを持って積極的に学習できるような工夫がある。</p> <p>○日本語による情報コーナーであるNotesやMore Informationを各所に設け、生徒が内容に興味・関心が持てるよう配慮している。</p> <p>○日米の学校の違いや漫画に関する話題、世界の国々への旅行が疑似体験できるような読み物があり、生徒の興味・関心が高まる工夫がされている。</p>	<p>○「Targetのまとめ」では、文法事項について日本語の詳しい解説がつけられており、重要文型の定着と、自学自習ができるようになっている。</p> <p>○巻末に学年を通したCan-Doリストが掲載されており、生徒が自分で定着度を確認し、意欲化が図られる。</p> <p>○Projectでは、3年間を通して場面に応じてまとまった量の文章を書く機会が設けられており、地域の英語課題である英作文力について対応が可能である。</p>	<p>○各教科と関連する題材が多数掲載されており、各教科の知識と連携させることでより深く理解することができるよう構成されている。</p> <p>○Let's Talkでは、各学年でショッピングや道案内など、身近な場面での会話が練習できるようになっている。</p> <p>○自分の将来の夢を考える活動を通して、実生活で大切なことを考えたり自己分析したりする指導につながる題材がある。</p>	<p>○付録として会話表現や基本文のまとめ、また、ジャンル別にまとめられたWord Boxが載っているなど、学力定着のための様々な工夫がある。</p> <p>○1年の冒頭にあるアルファベットの書き方を復習できるLet's Startでは、第2線と第3線の幅をやや広くし、小文字を書きやすくしている。</p> <p>○紙面にQRコードが付されており、家庭でも音声を活用した学習をすることができる。</p> <p>○学習の流れが把握しやすい紙面構成で、読みやすい配慮がされている。</p>	<p>○異文化理解、反戦・平和、生命の尊さ、生き方など、他者を尊重する気持ちや人間性を育むことができる題材を多数取り扱っている。</p> <p>○イラストや写真、図が豊富に掲載されており、学習効果が高められるような配慮がある。</p> <p>○学期末に複数のUnitで学習した文法事項などを活用しながら発信活動を行うProjectのコーナーがあり、様々な種類の統合的な言語活動を行えるよう構成されている。</p>

選定に必要な資料

特別の教科 道徳

N O . 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○35時間分の教材と5時間分の付録教材、合計40時間分の教材が用意されている。1年生では、小学校の教材「橋の上のおおかみ」が掲載されている。(1年p.180)</p> <p>○全学年の巻頭折込ページで、授業の流れや話し合いの手引きが示され、学習活動をイメージしやすいよう工夫されている。</p>	<p>○教材の冒頭に、ねらいとなる内容項目に関連したテーマを示しており、見通しをもって学習できるよう工夫されている。(2年p.118)</p> <p>○全学年に2時間扱いの問題解決的な学習が設定されており、教材を読んで問題を発見し、グループで話し合ったりする中で考えを深められるよう工夫されている。(1年p.86-91)</p>	<p>○教材の冒頭に、テーマに関連のある漫画のコマや登場人物の絵を掲載し、興味・関心を高めるとともに、学習のイメージをもてるよう工夫されている。(1年p.16)</p> <p>○全学年「Action!」が設定されており、役割演技や体験的な学習を通して考えを深められるよう工夫されている。(1年p.104-105)</p>	<p>○全学年で生命やいじめを考えるユニットがあり、それぞれ3時間の授業で重点的に学習できる構成となっている。3年生では生命倫理についても取り扱っており、発達段階を考慮した内容が設定されている。(3年p.71-81)</p> <p>○全学年で「情報モラルと友情」をテーマにした教材を扱い、現代的な課題について考えを深めることができるよう工夫されている。(3年p.102)</p>	<p>○教材の冒頭ページ下に関連のある教科等を示すマークが示され、各教科等の学的に学習できる構成とされている。3年生では生命倫理についても取り扱っており、発達段階を考慮した内容が設定されている。(3年p.192)</p>	<p>○AB版サイズのゆとりのある紙面となっている。</p> <p>○思考を可視化し、話し合いを意識できるよう配慮されている。</p> <p>○全学年の巻末付録に「テーマを振り返ろう」が設けられ、道徳科と各教育活動との関連を捉えやすくしてある。(3年p.192)</p>	<p>○各教材末の「考えよう」「自分を見つめよう」では、それぞれに1つずつ問いが設定されており、教材の内容と実生活の両面から思考を深められるよう工夫されている。</p> <p>○生徒が感想や意見を記入できるよう、各教材に「つぶやき」の欄が設定されている。また、巻末には切り取り可能な学期ごとの振り返りのページが用意されている。</p>
G	<p>○30時間分の教材と5時間分の補充教材、合計35時間の教材が用意されている。</p> <p>○全学年の巻頭オリエンテーションページでは、何をどのように学んでいくのが順を追って具体的に示され、学習の流れを捉えやすいよう工夫されている。(2年p.4)</p>	<p>○教材名の下に、導入となる問いが示され、教材を通してどんなことを考えていくのか意識付けられるよう工夫されている。(1年p.34)</p> <p>○全学年で「やってみよう」が設定されており、役割演技をしたり、日常の体験を話し合ったりする活動が示されている。(2年p.107)</p>	<p>集団生活を考える「けやき中」シリーズや、友情を考える「雅司、由紀、美佐」シリーズの教材が3年間にわたり掲載されており、同世代の主人公をとおして自分自身を見つめられるよう工夫されている。(1年p.94-99)</p> <p>○「ハゲワシと少女」ではインパクトのある写真を掲載することで、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(3年p.56)</p>	<p>○「いじめや差別のない社会」「生命の尊さ」について複数の教材やコラムを組み合わせたユニットが設定され、重層的に考えられるようになっている。(3年p.32-49)</p> <p>○情報モラルについて考える教材を学年の発達段階に応じて系統的に扱っており、学びを積み重ねていくことができるよう工夫されている。(2年p.70)</p>	<p>○日本の伝統文化として、1年「落語」、2年「狂言」、3年「将棋」が取り上げられており、国語科や音楽科と関連させながら、母国への誇りをもつことができるよう工夫されている。(1年p.162)</p> <p>○「裁判員制度を考える」は、社会科の学習と関連付けて学習を深めることができるよう工夫されている。(3年p.92-95)</p>	<p>○全学年巻末に「都道府県にゆかりのある人物とその言葉」が掲載されており、郷土についての理解を深めることができるよう工夫されている。(2年p.184)</p> <p>○1年前半の教材(1～10)では文字を大きくし、中学校の学習に段階的にスムーズに取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材末の「学びの道しるべ」には3つの問いが示されており、思考を広げたり深めたりできるよう工夫されている。</p> <p>○巻末に1時間ごとの学習を記録する欄、学期末・学年末に学びを振り返る切り取り可能なページが用意されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科 道徳

N O . 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
I	<p>○3 1時間分の教材と4 時間分の付録教材、合計3 5 時間分の教材が用意されている。</p> <p>○授業開きとして、「道徳の授業を始めよう！」が、振り返りとして、「道徳の学びを振り返ろう」が設定されている。 (1年p6, 160)</p>	<p>○年間を3つのシーズンに区切った学びのテーマが設定されている。各シーズンは学びのテーマに応じて複数の教材を組み合わせたユニットで構成されており、1時間の学びが単独ではなく次の教材への学びへと結びつくよう構成されている。</p> <p>○教材名の横に内容項目のキーワードを示し、見通しを持って学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○全学年でヨシタケシンスケさんの絵本「なんだろうなんだろう」や、有名人直筆のメッセージを掲載し、生徒の興味を引く工夫がされている。 (1年p80-81, 182-183)</p> <p>○各学年に1教材ずつの「見方を変えて」では、役割演技を取り入れた活動が示され、生徒が実感をもって考えを深められるよう工夫されている。 (2年p. 25)</p>	<p>○「いじめ問題」と「情報モラル」について取り扱う「深めたいむ」を全学年に設定し、身近な生活場面や自分の経験を重ねて考えられるよう工夫されている。 (3年p. 82-83)</p> <p>○全学年に「人と人との関係づくり」を設定し、他者とよりよく関わるスキルを学ぶことができるよう工夫されている。 (2年p. 26-27)</p>	<p>○各教材の「つなげよう」では、他の教材、他教科、日常生活との関連、図書の紹介等が掲載され、道徳科の学びが広げられるよう工夫されている。 (1年p. 58)</p> <p>○巻末の「教材別テーマ一覧」「この教科書が目ざした1年生の姿」により、道徳科と現代的な課題や各教科等との関わりを捉えられるようになっている。 (1年p. 180-181)</p>	<p>○各学年の付録では、日本各地の玩具や世界遺産、先駆者が紹介されており、郷土についての理解を深める工夫がされている。 (2年p. 185-187)</p> <p>○全学年で、巻末付録に小学校の教材が掲載されている。</p>	<p>○各教材末の「考えよう」では、教材をとおして何を学ぶのか意識できるようにめあてが示され、2つの問いが用意されている。「見方を変えて」や「つなげよう」の問いもあり、多面的・多角的に考えたり、日常生活につなげたりする工夫がされている。</p> <p>○巻末にはシーズンごとに振り返りができる切り取り可能なページが用意されている。</p>
O	<p>○3 5時間分の教材が内容項目のバランスを考えて配列されている。</p> <p>○巻頭のオリエンテーションのページには、道徳科の学習意義や内容、学び方やテーマが掲載され、授業の流れや1年間の見通しを捉えやすいよう工夫されている。 (2年p. 2-5)</p>	<p>○教材名の上に主題名を示したり、教材名の下に登場人物の写真や絵を掲載したりすることで、生徒の興味・関心を高めるとともに、学習の見通しを捉えやすくするよう工夫されている。 (3年p. 27)</p> <p>○「学習を深めるヒント」では、学習形態や効果的な議論の方法など、学びを深めるための具体的な手立てが示されている。 (3年p. 19)</p>	<p>○各学年の6つの教材に付随した「学習の進め方」では、問題解決的な学習や体験的な学習の方法、活動例が示され、学習過程をイメージできるよう工夫されている。 (1年p. 26-27)</p> <p>○「プラットホーム」「参考」「私の生き方」というコラムが適宜配置され、興味・関心を引くとともに、教材の理解を助けるものになっている。 (2年p. 105, 119, 123)</p>	<p>○複数の教材とコラムを組み合わせたユニット「『いじめ』と向き合う」が年間に複数配置され、集中的かつ継続的に考えられるよう工夫されている。 (1年p. 28-49)</p> <p>○複数の教材とコラムを組み合わせたユニット「よりよい社会と私たち」が年間に複数配置され、社会への参画や将来の生き方について多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 (1年p. 56-71)</p>	<p>○職場体験学習に関連した教材やコラムが複数掲載されるなど、体験活動を生かした授業が展開できるよう工夫されている。 (2年p. 98-109)</p> <p>○「内容項目別一覧」に各教科等との関連が示されており、道徳科とのつながりを意識した指導ができるよう工夫されている。 (3年巻末)</p>	<p>○1年間の学校行事や生徒の発達段階を踏まえて、適切な時期に適切な教材を扱うことができるように構成されている。</p> <p>○別冊「道徳ノート」では、保護者記入欄も設定されており、生徒の成長を学校と家庭で共有できるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材末の「考えてみよう」には、ねらいに迫る問いが示されている。さらに「自分に+1」の問いを用いて、自分事として考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○別冊「道徳ノート」は教科書の内容や構成に対応しており、発問や自分の考え、振り返りの記入欄があり、1ページに1時間の学びを記録するようになっていく。</p>

選定に必要な資料

特別の教科 道徳

N O . 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性を育む要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
P	<p>○35時間分の教材が内容項目のバランスを考慮して配列されている。</p> <p>○巻頭「新しい扉を開く」で、道徳科で学ぶことや考えることを示したり、考えを深めるステップを示したりすることで、学習の流れをイメージしやすいよう工夫されている。 (1年p. 2-3)</p>	<p>○教材に主題名が示されていないことで、自ら課題を見つけ考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○ユニット学習として「地球と地域の未来のために」「夢に向かって共に輝く」の2つが用意されており、持続可能な社会や自己の生き方について多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。 (1年p. 74-85)</p>	<p>○教材名の下にキーフレーズを入れることで、生徒が教材に興味・関心を寄せることができるよう工夫されている。 (3年p. 10)</p> <p>○「ブラックジャックふたりの黒い医者」では、著名な漫画家の作品を教材として取り上げており、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。 (2年p. 94)</p>	<p>○全学年で「生命尊重」と「いじめ防止」を重点テーマとしており、特に生命尊重に関わる教材に「いのち」のマークを付け、重点的に指導できるようにしている。 (1年p. 16 2年p. 94)</p> <p>○「金色の稲穂」は大田市立北三瓶中学校での出来事を取り上げたものであり、感謝することについて考えを深めることができる教材となっている。 (1年p. 90-95)</p>	<p>○「クローズアッププラス」では、「生命尊重」「いじめ防止」につながる3つのテーマである「自己肯定感」「メンタルトレーニング」「アンガーマネジメント」を扱い、実生活に生かしていけるよう工夫されている。 (3年p. 41, 55, 161)</p> <p>○巻頭「さまざまなテーマで学ぼう」で、各教材とテーマとの関連がわかるよう工夫されている。 (2年p. 8)</p>	<p>○AB版サイズのゆとりある紙面となっている。</p> <p>○生徒が気付いたことや考えたことを記入できるよう、各教材に「メモ欄」が設定されている。</p>	<p>○各教材末の「考えよう」では、ねらいに迫る問いが2つ用意されている。また、「深めよう」では、教材をもとに自分の考えを深め、広げることができるよう工夫されている。 (1年p. 14-15)</p> <p>○巻頭「マイプロフィール」、巻末「学びの記録」により、1年間の成長を確かめられるよう配慮されている。 (3年p. 9, 189-195)</p>
T	<p>○35時間分の教材が内容項目のバランスを考慮して配列されている。</p> <p>○別冊「中学生の道徳ノート」の前半に、各内容項目に関連した資料が1ページずつ掲載され、本冊と合わせて活用することができるよう工夫されている。</p>	<p>○1つの教材に対して複数の内容項目を設定している教材があり、学校や生徒の実態に応じて指導できるよう工夫されている。 (1年p. 180)</p> <p>○教材末の「学習の手がかり」に、主題名や内容項目が示されている教材もあり、見通しを持って学習できるよう工夫されている。 (3年p. 127)</p>	<p>○各教材の最後に先人や現在活躍している著名人の言葉が掲載され、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。 (2年p. 47)</p> <p>○全学年で、友情をテーマにした真一と夏樹が登場する「アイツ」シリーズが掲載され、生徒が自分の成長と重ねて学習できるよう工夫されている。 (1年p. 24-28)</p>	<p>○全学年で「生命尊重」と「いじめ防止・人権尊重」を重点的に扱える構成となっており、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 (3年p. 160)</p> <p>○全学年の巻末に「いじめ防止」「情報モラル」「現代的な課題」の特集が設定され、教材と併せて活用できるよう工夫されている。 (2年p. 158-163)</p>	<p>○巻末の「内容一覧」には、各教科と他教科や現代的な課題等との関わりが示され、道徳科との関連を図ることができるよう配慮されている。 (1年p. 180)</p> <p>○教材と併せて活用できる資料「thinking」が各学年3つずつ掲載され、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 (2年p. 157)</p>	<p>○AB版サイズのゆとりある紙面となっている。</p> <p>○1年では教材文の文字を大きくし、中学校の学習に段階的にスムーズに取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材末の「考える・話し合う」では、めあてや教材に関わる問いとともに、考えを広め、深めるための視点が示されており、学びを深めることができるよう工夫されている。 (1年p. 14)</p> <p>○別冊ノートには、1時間の学習記録、心に残った授業、学期・年間の振り返りを記入する欄があり、成長を確認できるよう工夫されている。</p>